# 愛國婦人

◎本號には理事公爵夫人一條悦子氏の肖像寫眞版を附錄とす

毎月五日二十日發行
一部金參錢　一ヶ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麹町區（牛ヶ淵公園）愛國婦人發行所
印刷人兼發行人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社説

## 博覽會

櫻を始め、百花こゝに咲き揃ひて、花の博覽會に、自然は賑ふ最中に、東京には勸業博覽會の催しありて、今が人出の最中なり。何時の間に用意せるにや、常には人の氣にも止めざりしこの木、この草が、麗はしき花に、春を飾りて、これはと人の目を驚かす如く、日頃はたゞ飯を食べて寢るとしか見へざる人間の中に、これは何處に如何なるたくみの者、腕のものありてや、繪にのみ見たる蜃氣樓、龍宮とやらんを、そのまゝこゝに現じ出したる勸業博覽會。織物、機械、繪畫、彫刻の工藝、美術は云ふに及ばず、豚、大根の牧畜、農業に至るまで、名は東京なれど、實は日本全國の殆んどあらゆる産物を一ト所に置き並べて、見せる趣向にて、田舍人は申すに及ばず、都會の者までが、は入ッたきりにて、何處から何う見てよきか分らず、これはくと唯驚くの一あるのみ。歐米にて開かるゝ世界博覽會とは、規模も小、出品も僅かなものにて、兎ても較べものにならずと、自分は外國人にて、其世界博覽會を開いた張本人のやうなことを言ふハイカラもなきにあらねど、世界博覽會と、內國、しかも一地方の博覽會とは、較べるからが、間違にて、日本なれば、東京なればこそ、今時東亞でこれ丈けの博覽會が開けるにて、兎や角言ふものゝ、實際大出來に相違なし、百聞一見にしかずといへば、日頃實見の機會少き婦人は、都合つかば、成るべく見て置くべし。されど見るにも、見方あり。廣告の爲め、賣るための出品なれば、いづれおろかはなく、中にも織物、寶玉、裝飾品などには、立派千萬なものあり、婦人は立つて動かず、正札と見くらべて、妻は夫に、娘は母にねだるもあるべく、或は世には斯る物を用ゐる人もあるに、同じ女と生れながら、自分は兎ても及びも付かずと、不平を起す者もあるべし、各勝手なれども、博覽會は見てたゞ贅澤心を增長し若しくは不平の念を起さしむべきものにあらず、日本人は現今如何なる物を、如何なる程度に作るの能力あるか、如何ほどの意氣込み、努力が、製品の上に現はれ居るか、其長所又は改良すべき所は如何、又その將來は如何などのことが、最も注意すべき點にして、博覽會の催さるゝ主旨は、畢竟之れに歸着するものなるべし。我等は成るべく多數の婦人の觀覽を望むと共に、其見方、利用の方法に就て、充分考慮せられんことを願ふものなり。

## 世界的

本月上旬萬國基督敎靑年會大會を帝國の首都に催されて、始めて世界的の會合を、我が國に見ることを得たり、而して其婦人會員の會合は、また我が國に於ける萬國婦人會の端緒と見做すことを得べし、然れども婦人の世界的會合は、宗敎に限らず、社會、敎育、矯風、勞働等、婦人問題に就ての世界的會合も、從來西洋の都會に順次催されたるが如く、我國にても催さるゝやうならざるべからず、それにはまたそれ相當なる、何處に出しても耻しからざるの婦人を要す、修養の怠るべからざる所以なり。

## 寛大

萬國基督敎靑年會大會が、佛敎國の首府に於て、何等の故障なく、妨害なきのみならず、市長の歡迎、市民の厚遇の下に、滿足に開かれたるさへ意外なるに、同時に全國佛敎徒の大會を催して、敬意を彼の大會に表したるが如き、宗敎に於ては、歷史上毛嫌ひ、排斥心強き外國人には、不思議とも何ともたとへがたき感を起したるなるべし。此點にかけては、世界中恐らく日本人ほど寛大なる國民はなかるべし。我等には平氣にて當り前なれども、外國人には、考ふれば考ふるほど日本人は分らぬやうなつて來るなり。然らば日本の婦人は如何、これ恐らく外人の最も難解とせる所にして、其眞面目の明められざる限りは、日本人は、彼等には何時までも謎たるべきなり。

## ブース大將の渡來

救世軍の組織者にして、其總督たるブース大將は本月中旬我國に渡來せられ、目下其偉大の人格を以て、我が精神界に大なる感化を與へ、且其事業のために、熱心盡力せられつゝあり。救世軍は人類、社會に害毒、零落、滅亡を來す「惡」の諸の主義に反抗し、奮鬪して、世界を善に進め、暗黑を脫して、光明の生活をなさしめんが爲に起れる精神的義勇軍にして、世界到る處に、其勇士を有し、授産、救濟、慰安、矯風、感化等あらゆる社會的事業のために、絕大の好績を擧げつゝあり、實に救世軍は十九世紀後半以降の顯著なる世界的現象にして、ブース大將はまた人類の一大恩人なり、我が愛國婦人會の如き、尙其規模、事業に於て、救世軍に及はざるや遠し、ブース大將の精神意氣と、救世軍の活動とは、我が會將來の活動に向て、大なる敎訓と激勵を與ふるものとして、此人及び其事業に向て、我が會員の敬意と注意を拂はれんことを望むものなり。

博覽會場臺灣館と機械館のイルミネーシヨン

## 鐘の音

人見東明

愛見逝きぬる
佗びしさに
え堪へて母の
忍ぶごと
涙にぬるゝ
日は、今し
かなたへとほく
沈みけり。

うれひの脈も
通りしか
鐘かなびしの
音に出てゝ、
澱むともなく
野におりて
小草がゆめの
香にいぶく。

鐘のけはひに
夕雲の
こゝろもしめり
うごきしか、
頸を垂れて
靜やかに
草にしづまぬ
音を慕ふ。

かくて、ひとゝき
野は、ふたり
相擁くらしも
しめやかに
よろづのいぶき
しのばせて
あるかなきかに
もの古りぬ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 論叢

# 若き婦人の覺悟

女學校卒業生に對する希望

東京帝國大學總長　山川健次郎

櫻の花の咲く頃は、丁度學年の終りて、方々の學校に卒業式があります、男子て中學校を卒業した方へ對しては、別に希望がありますが、今日は女子で中學校を卒業なすつた方に希望する所を述べませう、私の希望する所はいろ〳〵ありますが、第一に運動をなさることをお勸申します、運動と申ましてテニスなんかをなさいといふのではありません、家庭に於て臺所の手傳ひや、それから座敷の掃除、椽側の雜巾がけ、庭園の掃除、それから手入などを、せつせとなさいといふのです、テニスが、上手になつても仕方がありませんが、家事のことに立ち働いて、運動をなされば、それが一廉の實用に立つて、そして、身體も健康になります、第二には、貞淑であつて、そして、自分の學問を鼻にかけるやうな振舞があつてはなりません、生意氣と云はれるやうな言遣や、がさつな起居をしてはなりません、昔は學問のある婦人は、世間から大變嫌はれたものですが、これは何て嫌はれるかと申しまするに、學問を鼻にかけるからです、文字のないものを輕蔑するからであります、それて、昔の學問をした婦人の時代より、現今は一層々世の中が進んで居りまして、進んで居るだけ世の事柄も、亦學問すべき範圍も廣くなつて、また非常に復雜になつて來ました、そして、全國に女學校が百三四十校もあるやうに、女子教育が盛な今日に於きましては、昔の天狗な婦人の方よりも、ずつとえらい人が多いのであります、それて、今日ては、ちつとばかり學問した位では普通となりましたが、それなら、普通と云へば、高等女學校を卒業したものかと申せば、左樣ではありません、高等女學校を卒業したものは、普通より數等上て、實に立派な學問をなすつた方てあります、ですから、もう此の上は學問なさらなくても宜しいので、また、世の中に立つて、一家の主婦となつて行くには十分なのでありさす、それゆゑ、私は、或る特殊の方を除いて、もう女學校を卒業なされば、最早その上學問をなさらなくつても宜しいと存じます、いや、寧ろ是でお止めなさいと云ふのであります、婦人は男子とは違つて、嫁して子を生まなければならぬと云ふ義務がありますもので、また男子とは違つて、纎弱い性のものであります、纎弱いものが、男子と競爭するやうにして、復雜な學問を致しますのは、あまり褒めたことてないと存じます、て、女子の學問は、昔から見ると隨分復雜になつてゐますが、これから將來はまだ〳〵復雜になつて、腦を使ふことが甚だしくなると思つて居ります、腦を使ひますと、勢ひ身體が弱つて、終ひに子が出來ぬ婦人ばかりになりはせんかと、これが、私の始中終掛念して居る所であります。それゆゑ、もう女學校を卒へましたら、特殊の方の外は、是で學問をお止めなさいと云ふのであります、學校の卒業式などには、小成に安んじては不可ないと云ふ方もあつて、大いに煽てゝ學問を勸めますが、私は、もう是て安じて可なりだと云ふ說てあります、それから、第三は、質素儉約であります、この頃の婦人の服裝、すべて身の周圍を見ますれるに、甚だ綺麗で奢侈に流れて居ります、今の日本の借金を考へて御覽なさい二十四億圓と云ふ巨額の借金があるのです、この巨額の借金を何うして返したら宜からうと云ひますに、凡て奢らぬやうにすると、働くのと、この二つの途の外、途は無いのであります、國が借金してゐたつて、家は知らぬといふものてありません、家が幾つも集つて國家を作つてゐるのですから、大いに質素儉約をせねばなりません、今を距ること四十年ばかり前に、獨逸と佛蘭西が戰爭しまして、佛蘭西は二十幾億圓の償金を取られました、その上佛蘭西國內で戰爭したのでありますから、家は燒かれ、田は荒されて、幾萬の人が死んだので、實にみじめな有樣になつたのです、が、驚くべきことには、未だ幾年も經たない內に、償金はすつかり返し、そして、非常な勢て、國勢を挽回し、戰爭以前よりも、商業も盛になり、工業も盛になり、すべての事業に於いて大いに發展しまして、只今では、世界の强國となり、又富國となりました、て、獨逸の方では、佛蘭西が斯樣に早く、恢復して、斯樣に恐るべきものになるとは夢にも思つてゐなかつたので、僭か疑かも知りませんが、彼のビスマークが、「今少し償金を取つてやつても宜かつた、」と云つたさうです、そして、獨逸は、又、佛蘭西と戰爭をして、今度は、再び立つことの出來ないやうにせうと企てゝゐたのですが、この密謀は到頭漏れて萬國が仲裁して、先づ〳〵無事に濟みました、それて、佛蘭西と云へば、非常に贅澤な國で、奢侈な國のやうに思つてゐる方がありますが、佛蘭西の國民のやうな質素で、儉約な國民はないのです、世界の奢侈流行の源と云つてゐますが、この奢侈なことをし、この華美なことを作つて、國を飾つて、ゐますのは、佛蘭西へ來る外國人に、金錢を使はする手段としてゐるのです、佛蘭西人その者は至つて質素で儉約をしてゐます、それゆゑ、かやうに早く償金を賠うたのです、ですから、我が國民も擧つて、質素儉約して、早く、この大借金を返すやうにしなければなりません、學校を卒業してからは、嫁して一家の主婦となり、やがて母となる方が多いでせうが、皆さんは、この心得て、家庭一切のことを質素にし、且つ儉約にされんことを望みます。

## 男子に對する希望
### 五箇條

男子は女子に對して社交、家庭等に諸種の希望を有し、これを要求すること頻りなり

社交、家庭の事、豈單り女子の力のみを俟て成就すべきものならんや、女子また男子に對して希望要求する所無かるべからず

乞ふ諸姉が男子に對して希望する所の五箇條件を投ぜられむことを

規定

一、一箇條を廿五字以內に認むる事

二、投稿締切は五月十日の事

三、投稿は女子教育家の選擇を經て本紙に掲載發表する事

四、匿名は一切沒書とする事

五、當選者には薄謝を呈する事

# 女子と犯罪

衆議院議員　花井卓藏

女子が犯罪を構成する原因に三つあります、其第一は虛飾虛榮の心である、この念慮は上下を通して總ての婦人にあることて、下女に至るまで此念慮を持つて居る、これを滿足せしむる爲めには人の所有物が羨ましく欲しくなり、遂には耐へ切れずして手を伸ばして盜るやうになる、婦人の竊盜犯は多く此の心より起るのである、其第二は嫉妬猜疑心である、自分の夫が一寸美人と立話しをしても、直ぐに嫉妬の念をむら〳〵と起し、夫の袂から手紙の反古が出てさへ夫の行爲を猜疑の眼て見ると云ふが如き有樣て、此心よりして多く喧嘩を引起し、其極は放火罪及び殺人罪を犯すことが往々ある、昔の婦人には美しき顏をして居つても嫉妬の結果石になつたと云ふのがある、故に妬と云ふ字は女扁に石を書くのだと云ふ話さへある、其第三は强情我慢の心である、昔から婦人には人に從ふことを敎へてあるが、これは平素婦人の性質が强情我慢であるから、成る可くこれを押へやうとかゝつて居るのである、善きことに向つて强情我慢を張るのはよいが、兎角惡しきこと、間違つたことに向つてまて强情我慢を張り通す性質を備へて居る故に男子は犯罪を犯しても潔よく白狀するが、女子の犯罪者と來てはなか〳〵容易に白狀をしない、のみならず事理が能く解らないで强情を張るのであるから尙更六ケ敷い、故に女子教育家に於て、此三つのものを女子の性質より取除くことが出來れば立派な婦人も輩出しやうし、又社會からも犯罪を除くことが出來るであらうと思ふ、それから、女子の敎育は、今日より尙ほ進めなくてはなりませんが、或る程度まで進めば、其邊て止めて置いて貰ひたいと私は思ふのである、何故かと云ふに、若しも女子が男子よりも一歩を抽くことになると、其時は國家の基礎を危くするかと思ひます、天の女子に附與したる職分は、女子丈けの天職であつて、女子は其天職を全ふすることを心懸けるが必要である、女の豪くなつた位ゐ世の中の爲にならぬことは無いかと思ふ、一家に於ても亭主より女房の方が豪くては一家が治まらぬのは實際てあるから、豪い女は少々馬鹿になつて貰ひたいと思ふので、女子は天が女子に與へられたる一定の軌道を眞直に進んで、此線を脫線せないやうに平素の注意を希望するのである、併し私は女子諸君の前途を遮ぎる爲めに申すのではない、少くとも男子を乘り越さうと云ふ念を愼んて貰いたいと云ふ丈けのことてある、斯くて男子は男子、女子は女子と、各々其の天職を全ふして行くやうにしたならば、忌はしき女子の犯罪は自然と消滅して了ふのである。(於某女學生會席上)



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說

## 守唄

相馬御風

浪の音を聽いて生れたものは幸福だと誰やらが云つたやうに覺えて居るが、そんな事は北國の荒海の岸で生れた私達には、ほんの詩人臭い云ひ草としか思はれないのです。海は怖いものだ、酷いものだとばかり思ひ込んで居る故か、幼い時分からどうしても海とは親まれないで、たゞもう何の事はなく山國や都會を慕つたものです。毎年秋の暮から冬へかけて、一日と晴々しい天氣はなく、起きる朝も起きる朝も、重たい暗い灰色の雲が蔽ひ被さつてるのでせう、誰だつて陰鬱になりますよ。おまけに日本海の冬の波と來ては、とても〳〵他國の人の想像のつくものではありません。それに、不思議な事には私達の方がそんなに荒れて居るに引きかへ、僅か山脈一つ隔てた信州は毎日のやうに晴天で、屛風を立てならべたやうな高山の眞白な頂を越えて、ほんの少しばかり碧々とした空が見えるのです。で、さなくとも空の綠や日の光にあこがれてる私達には、その一寸ばかしの空の色が此上なくなつかしく戀しく慕はしく、果は天の不公平が怨めしくもなるのでした。「あゝ、今日もまた荒れか」と心の底からつぶやきながら起き上つて、二階の窓を明けて見ると、折から朝日の光に充ちたオレンジ色の信州の空が、さつと目につくのです。すると、もう何時の間にか我を忘れて、その美しい空の下の國の有樣を想像する、賑やかな町も出てくれば、立派な學校も出てくる、紙鳶も上つてれば、旗も立つて居る――と云ふ風に、さま〴〵の連絡のない幻影が幼い心を充たして、終には自分までがその中の一人であるやうな氣持になつて來て我知らず躍り出すやうな事もありました。ざつと、こんな風でしたから、幼い時分から私達の胸の中には、南を慕ふとか綠の空にあこがれるとか、さては海のない國、雪の降らない都會へ行きたいとか云ふ一種しめやかな息が籠つて居たのです。

それに、私の母は至つて病身でしたので、生れ落ちてからは全く乳母の手一つに育てられたのですが、その乳母と云ふのが又至つて陰鬱な女でしたから、自然私もこんな人間になつたのでせう。自分が陰鬱な性質であると案外陰鬱な所を怖れるものと見えて、私なんかも自分が陰鬱である癖に、とかく故郷の暗つぽいのが厭でして、どうかしてもくわらりとした空の國へ行きたい〳〵とばかり思ひ焦れて居たのでしたが、やつと十九歲になつて望が達せられて、夢中でやつて來たのが此東京です。

東京へ來てから、かれこれ十年にもなりますが、いまだにその時の事が忘れられません十年！短かいやうで永いものは、自分の過去であります。チヨツト考へると夢の間に過ぎたやうな十年の都會生活も、今の變り果てた私の境遇、私の心を昔の私のそれと思ひ合せて見れば、何だか私の通つて來た道が幾千里も後につゞいて居るやうにも思はれるのです。「あゝ、何故自分はこんな烈しい、苦しい生活の巷を慕つて來たのだらう？」とは、時々の心の弱味につけ込んで來る疑です。眞實に何故でせうか。何故人間は自然と親しんでばかり居れないのでせう、空も暗い、雪も多い、風も烈しい、寒さも强いには違はないけれど、人の世の苦しさと比ぶればどんなにか〳〵住み易い故郷の自然を何故あんなに私は怖れ嫌つたのでせう。そして僞の多い、罪の多いこんな塵の巷を慕つたのでせう。しかも、人間の繁榮とかくわらりとした空とか、好勝手な望を抱いて、折角自分を育てやうと生んでくれた自然の故郷にも背いて來た果は、冬枯の野よりも更に淋しい更に荒れ果てた人生の荒敗に泣いて居る私は、まア何たる馬鹿者でせう。故郷の冬は淋しく物憂かつたは事實なれど、自然の冬枯にはやがては春の望があります。人生の冬枯に何の望がありませう。人の世を慕うて來て、人の世に失敗した私は、更に自然を慕ふ弱い幼い心に立ち歸つてしまひました。あの蕭條な、飾りのない、僞りのない冷酷な陰鬱な北國の自然は、この甘い夢で誘ひ出しては欺き僞り弄ぶ人生よりは、どんなに氣持が好いでせう。暖かい手に欺むき引かれて、我知らず怖ろしい破滅の淵へ誘ひ込まれる文明の人生よりは、始から露骨に人間を虐遇して僞らない自然の方が、今の私には寧ろ慕はしいのです。

私が人生の夢から覺めて日一日と眞に自分の空虛を感じ始めましたのは、つひ去年の秋頃からですが、其頃から不圖私の耳につきまとうて離れぬ一種の響があります。晝間は左程にもないのですが、夜になつて心がしんみりとして來るときつと聽えるのです。波の遠鳴のやうな、嵐の響のやうな何とも云へぬすごい響て、それがフト耳につき出すともう居ても起つても居れぬ不安の念が起つて來て心臟の皷動は昂まる、毛穴は立つ、目がグラ〳〵すると云ふ風に、私は全く其響の擒となつて終には氣でも違ふやうな心持になるのです。醫者に云はせたら、神經衰弱とでもするのでせうが、私にはとてもそんな簡單な解釋では滿足が出來ません。それに、不思議なのは其響の奧底に何だか一種の肉聲が交つて居て、それが妙に私の記憶と結ばつて時々は唄のやうにも聽えるのです「泣いて――、くれるなア、まだ日がア暮れぬ――、暮れりやアお寺の鐘がア鳴アる――」。此唄です、此唄がどうかすると聽えると云はうよりは、寧ろ例のエタイの知れぬ響を聽く私の耳に心の中から應えて出て來てなりません。無論何等かの記憶が例の響によつて引き出されるのですが、それが何所で聽いたとも知れず、何時誰から聽いたとも覺えない、全く始めての唄としか思へないのです。不思議ぢやありませんか。

あゝ、私は何時此唄の主を思ひ出せるのでせうか。或は又此唄の主に何時かは再び遇ふ事が出來るのでせうか。今の所では、こぢつけ〳〵「これはきつと幼い頃乳母が唄つたものであらう」とまでは解釋して見たのですが、それも確めて見るにも、乳母はもう疾に死んで此世には居ないのですから、これ以上はとてもわからう筈がありません。で、私の一念では、せめて此唄を眞に私の胸の底まで泌み透るやうに唄つてくれる人を見つけ出して、其人から世に惱む私の淚を一時たりとも拭つて貰ひたいと、それぱかりが樂みなのです。（をはり）

東西名婦傳

## エリサベス、フライ夫人

關　天園

エリサベス、フライ夫人は西暦一千七百八十年五月二十二日、英國ノルウツチに產れ、同胞十一人、夫人は即ち其三女であつた。母は清教徒の保護者たるバークレー氏の孫に方るので、信仰の念厚く、爲めに夫人も其感化を受けて、敬虔なるレデーとして成長した。然し母の永眠後は婦人常套の華奢流行に眩惑し、一時は世の中から指彈せらるゝ身となつたが、根が發明な質であるから間も無く斯非を悔い悛めて、斷然交際社會から退いて了つた。而して身を貧民救濟の事業に捧ぐべく心を決し、自家の附近に貧民學校を創設して、窮倅の子弟を敎育するに勗めた。此の美擧は端なくも彼の倫敦の豪商ヨセフフライ氏よりの求婚を胎み出すに至つた。夫人は此の結婚が或は自己の事業の滅亡を意味するものではないか、と、尠からず疑ひの淵に漂つたが、信念さへ堅固であつたら、結婚位で事業の破壞を來す事はないと堅く信じて、華燭の典を擧げた。結婚後に於ける夫人の事業は豫期の如く何等の變化もなく續き、遂に其理想を實行して、一日も彼等惱むべき貧民の味方たることを忘れなかつた。斯くて三十七歲の時、夫人は監獄を訪ふて女囚監房の一部を視察したが、彼等女囚の墮落狀態の餘に甚しきに悲痛の淚を拂つた、此の淚が動機となつて遂ひに監獄の改良に心を用し、ニューゲートの獄內に講義所を開いて、日日聖書を講じ、彼等女囚の心靈に限なき改悛の情と信仰の念とを吹き込んだのである。同時に一方には監獄內に學校を設けて、憐れなる少年少女を敎育したが、其の功績空しからずして、夫人の聲名は赫灼として天下に轟き渡めた。夫人は眞に貧民や囚徒にとつては、母によりも厚き恩誼を有る人であつた。

一千八百四十五年夫人は其の使命を果して、靜かに平和の墓に永眠つたのであつた。時の女皇ヴイクトリアは、彼女の生前に再三厚き〳〵御言葉を賜はつたと云ふ。誠や情は人の爲あならず、夫人の光榮は眞個永遠の世界を照すてあらう。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 未來の妻君料理のお稽古

棚橋絢子

學校では、家政科の一端として割烹などありますが、わづか一週間に一回か二回しかないのですから、さほど稽古にもなりません。ですから、學校生活をなすつて居られる方は、勉めて、家庭にゐては、庖丁を取り、煮炊することを覺えなければなりません。そして、料理のことは、隨分、いろ／＼と澤山な本がありまして、いろ／＼と說明を加へてありますけれども、實地やつて見ますると、なかなか旨くは行きません。分量などは、規則通りにちやんと計つて間違ひなくやりましても、肝腎の火の加減が、强かつたり、弱かつたりして、なか／＼旨くは行きません。理窟ばかり心得てゐても、實地やつて見て經驗しなければ、何の役にも立ちません。料理大全を控へてゐても、割烹辭典を備へてゐても、何にもなりません。煮過したり、炒り過したり、或は煮足らなかつたり、辛かつたり、甘かつたり、いろ／＼と失敗に失敗を重ねて、そして、一度は一度と、僅づゝ、經驗に敎へられて、次第々々に覺えてゆき、また從うて、自から發明する所も出來て來るのです。それて、極上等な醬油と味淋とを使つて、極鮮しい三崎鯛（東京では相州三崎の鯛を極上としてゐます。）の切身を煮ますれば、それや、おいしいことは定つて居ります。けれども、その煮方が下手てありますれば、折角の鯛をたいなしにして不味くして了ひます。煮方さへ上手なれば、二番か三番の醬油と味淋とを使つても、却つておいしく出來ます。同じ大根一つても、煮方て、大概のお肴よりもおいしく出來ます。折角高いお肴を買つて、それを野菜より不味く食べるやうにするやうでは、第一大變な不經濟となります。毎日々々三食は何處の家でもしなければなりませんが、割烹がかやうに拙いと、どの位不經濟、どの位損となるかも知れません。それゆゑ、一家の主婦となるものは、本が讀めて、字が書けるより、寧ろ割烹術と裁縫とか上手に出來なければなりません。自分が上手に料理が出來て、それをおいしい、おいしいと云つて、一家一同の者が食べますれば、また其の愉快は例へやうがありません。所夫が夕方勤務から歸つて來て、晩餐をする時、その妻君が手づから拵へた、わん盛、てり燒、茶碗蒸、和へ物、さては、フライ、シチュー、オムレツ、カツレツそれ等のものを、どの位喜んで食べられるか知れぬ。そして、同じ肴を使つても、これを刺身に、碗に、鹽燒にと、いろ／＼と變へて料理して、變化のあるやうにし、所天の口を飽かさないのは、妻君たる人の働きにあるのです。主人が鯛の潮汁が嗜きだと云つて、いつもかも潮汁では、しまひには飽きて了ひますから、同じ鯛でも、いろ／＼と變へて、或は、から蒸にしたり、味噌漬にしたりして、食べ方を違へなければなりません。て、割烹もなか／＼難しいもので、到底一朝一夕で上手になれるものてありませんから、學校生活をしてゐる若い方は、家庭の日課と心得て、練習なさるやうお勸め申します。割烹などは、おさんの爲ることなどと云つて、何にも手を出さぬやうでは、將來、如何に立派な所へお嫁に行きましても、不自由を致すことがあります。たとへば、召使が拵へた料理が不味くつても、第一、これを批評することが出來ません。唯不味い／＼と云つても、批評する資格がないのてあります。てすから、是非とも、婦人は煮炊と裁縫と研究を一意專心にやつて、何でも廣く心得てゐなくてはなりません。

それて、この比の料理の本を見まするに、醬油ても、味淋ても、皆上等の品ばかりを用ゐてあるやうです。上等の品は、まづ中等社會以下ては、使ふことはないのてすから、すべて中等の材料て、中等の醬油を使ふと云ふ工合に、何ても中等と云ふことを標準として書いてなく、又、精しく煮たりする時間などを書いてないのが缺點てあると存じます。て、かやうに、材料に大變お錢をかけるからと云つて、料理が上手に出來るものてもありませんし、また經濟と云ふことゝ權衡が取れませんから、一家の主婦たるものは、そこを能く考へて、經濟も料理も旨くやつて行くやうにしなければなりません。

# 貯金實行談

北海道支部事務員　小池九一

私の思ひ立ちまして、貯金を始めましたのは年齡漸く十歲の時からで今日まて二十年間絕へず貯金を實行して居りますが、何故に貯金と云ふ觀念を私が引起したかと申しますに、私は孤兒てありまして、父も母もない爲めに或る商家に丁稚奉公をしたのてありますが、十歲の時につら／＼考へますに、自分には天地の間に親と云ふ依賴すべき人がない、身體の壯健な間は丁稚奉公をしても生活して行かれるが、一度病氣などに罹たならば他の子供のやうに引取つて治療をして與れる人がない身てあるから、金を貯へて置て人に迷惑を掛けぬやうにすることが必要てあると云ふ考へからして、萬一に自分にも何處かに金がありはせぬかと、母の遺物を探した處が、穴の明いた金が七文ありました、これを基礎として貯金をしやうと思ひ、主人に請ふてこれを一錢に替へて貰ひたいと申しました、處が主人は何にするのかと聞きましたから、自分の決心を話しました處が、主人も大層喜んて、奬勵の言葉を與へて與れました上に、七文の金を十錢に代へて與れました、夫れを得て自分は天に登るが如く嬉しく、手の舞ひ足の踏む處を知らず、直ちに夫れを郵便貯金に致しまして、夫れからと申すものは絕へず貯金を繼續致して、今日に及びましたが、私の經驗によりますと、貯金と云ふことは決して困難の仕事てはありません、容易に行はれることてあるとを知覺致しました、貯金す可き必要を認め、其方法を立てながら、これを實行する丈けの勇氣と耐忍とが無いやうな人間ては、何事を爲すべく企てた處で、到底成功は覺束ないことと考へて居ります、私は何人でも自己の獨立を計る人は、貯金が無くてはならぬと考へますと同時に、何人ても其働きの中より貯金が出來ぬと云ふことは無いと確信致して居ります、私は北海道に出て始めて八圓の俸給を貰ひましたが、八圓は食料に要しますから他に副業を營み、其副業より得たる利益は總て貯金に致すことと致しまして、今日ては豫想外の貯金を得るに至りました、併し金錢は善く貯へても善く散しる方法を考へねばなりません、又貯金する動機及び目的が只金錢を愛する爲めとか、金を守るとか云ふ丈けては何んの役にも立ちません、故に私は十年程前より慈善貯金と云ふ別途の貯金を始めまして、貯金すべき額の十分の二は必ず慈善貯金に回すことに致し、慈善的寄附行爲は皆此貯金より支出することに致し、旣に數十回支出して居ります、人間の生活の內には必ず慈善的行爲が無くてはなりません、世の多くの人は、私は未だ慈善的の施をなす程の地位に達せぬから、慈善の爲めに出す金がありませんと申しますが、これは甚だ誤りてありまして、其身分相當の金の出せぬことはなく、又これを出す可く用急を爲して置くと云ふことが人生の義務に屬して居るかと信します、其他私は家計を營むについては秩序と質素とを旨とし、第一家計費目を十科目に立ち別ちて豫算を立て、其費目の流用は互に許さぬことに致し、現金主義を實行し、本月の給料で本月の費用に充てず、先月の給料を以て本月の費用に充て、費目の金錢は皆袋別けに整理致し、又他人との金錢貸借は一切嚴禁のことに致して居ります。

斯樣に致しても頗る平和なる家庭を營なんて居ります。

# 小兒室の建築

工學博士　辰野金吾

小兒室を建てるについて私の第一着眼點は、小兒が室內で如何なる遊戲をしても怪我をせぬやうに工夫して建てることが一番必要のことと思ひます、何程立派に、何程多くの金をかけて建てた家ても、小兒が其部屋で怪我をしては、建築家としての責任が濟まぬのみならず、其父母も其子に對して濟まぬ譯けてあります、然るに從來日本の家屋は兎角く角張つて居て、柱は總て四角なものを用ゐ、小兒が一寸轉かつても怪我をするやうに出來て居る、昔から「座の內の怪我」と云ふ諺さへあつて、部屋に居てさへ小兒は怪我をすることが往々ある、故に小兒を育つるにも干涉が甚だしくして、轉がつてはならぬやうにして注意を怠らぬので、其心配は一通りのものてない、のみならず餘り干涉される爲めに遊技さへならず、小兒の發育を害することが多い、故に私の考へは小兒が轉がつても決して怪我をせぬやうにすることが大切である、それをなす方法は室の四方へ小兒の高さ程のゴムを張つたらよかろふと思ふ、西洋の風癲院の如きは皆さうなつて居つて、何れへ轉がつても怪我をせぬことになつて居るが、それに習つて作ることが必要てあると思ふ、其他柱は必ず丸くし、又光線は十分に取り入れるやうに作り、體育の發達を妨けぬやうに造ると同時に、敎育的にも作る必要があると思ふ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

# 十六日櫻

江戸　靜川

伊豫の松山から半里ばかり、お城の北に方ッて山越と云ふ所があります、其處に龍穏寺と呼ぶ大な古刹がありますが、この古刹に十六日櫻と云ッて、毎年正月の十六日に花を開らく、實に不思議な一本の櫻があります。

正月の十六日と云へば、梅の咲く時分だのに、櫻が咲くと云ふのは、嘘のやうに聞へませうが、これには深い、深い因縁があるのであります。

昔この古刹に學問知識の勝れた和尚さんがありました、この和尚さんは大層花が好きて、いろ〳〵花の咲く木や草をお庭へ植えて、朝に晩に、勤行の暇さへあればこれを詠めて樂むで居りましたが、その中でも殊に櫻を愛して、天上天下、我が心を慰むるものは、佛樣と櫻の花と、たゞこの二つあるのみであると云ッて居りましたほどて、櫻の咲く時分になると、廣い書院を開け放して、茗を養て、香を焚いて、詩を作ッたり、和歌を詠むだりして樂むのでありました。

高德善智の和尚さんでも、老る齢と病には勝たれません、老人に能くある中風と云ふ病に罹り、足も、腰も、起たなくなッて全三年と云ふもの、好きな、愛する櫻も見ることが出來なくなりました、併し豪い和尚さんてありますから、身體の自由が利かなくなッたとて、短氣を起して傍に添いて居る人を困らせるやうなことや、世を果敢むと云ふやうなことはなく、盛者必滅會者定理、人間一度は必ず死ぬるものと悟ッて病の床の上、徐かに佛の御名を唱へつゝ、光明遍照、淨土の迎ひを待ッて居りました。

其の四年目の正月の十六日の朝のことてありました、和尚さんは傍に添いて居る、其時十六の小僧さんに對はれて「長々の病て大變に心配をかけたが、衲の命はモウ今日半日……。」と小僧さんの顏をぢッと打戍り「死んて了へば幽明境を隔てゝ、また會ふことも、逢ふて話をすることも出來ぬが、お前は衲が死むだ跡でも、精出して勉强して、何うか立派な僧になるやうに、衲は草葉の陰から見て居りますぞ。」

と、何時に變らぬ慈悲深いことを云はれまして、小僧さんは潸々と涙を流し「死ぬるなんてお師匠さん、什麼、什麼事を……。』と口籠る

「イヤ〳〵、何にも泣くことはない、死ぬると云ふことは人間生れた時から定ッて居るのぢや、生れて直ぐに死ぬるも一生なら、衲のやうに長壽をして死ぬるも一生、而して衲は衲の爲すべきほどのことを皆ンなして了ッて淨土へ行く故、思ひ遺すこともないが、病に罹ッてから三年見ない櫻の花の咲いたのを、唯だ一輪でもよい見て逝きたいと思ふが、今は雪降る冬の日の、如何に見たいとて人の業ては出來ぬこと、唯だこればかりが。』と溜息を吐かれるに、山より高く海より深き師の恩に報ゆるには、臨終の際に愛し給ふ櫻の花を見せまゐらすることとて、此上もない報恩と思へど、何を云ふにも正月の十六日、梅を櫻と咲き代へさせることは素より出來やう筈がない、然し、若しや萬一と小僧さんは、幾度か庭へ出て見ましたが、庭は昨夜の雪深く積むて、お籔の竹の雪を刎ぬる音、冬の山寺の寂けさを破つて物凄い。

「あゝ、これでは駄目だ。」

小僧さんは大恩ある師には今僅かの時間て永き別れをせねばならず、その師の君に見せたい櫻の花はなく、絶望の色を面に浮かべて、悄然として和尚さんの枕邊に戻れば、和尚さんは

「モウ臨終が迫ッて來た、責ては櫻の木なりと見て行きたい、御苦勞だけれども庭へ連れてッては呉れまいか。」

と云はれるに、小僧さんは胸張り裂ける思ひ、涙をかくして和尚さんを背負ひ、雪の庭に降り立ッて、櫻の木の下へ行ッて見ますと、コハ不思議、今の前蕾一ツなかッた枝に、美しい花が五輪咲いて居りました。

小僧さんの喜びは云ふまでもない、和尚さんの喜びは、現世て佛陀樣に會ッたほどの喜びて、嬉しい〳〵と云ひつゞけ、滿足の笑を含むて小僧さんに負はれたまゝ、永き眠りに入りました。

其後この櫻は、時を違へず毎年正月の十六日に、非情の草木と雖も、德高き人、恩を知る人の爲めには、斯くして報ゆるところありと云ふやうに咲きますので、何時か此事天聽に達し、四國御巡幸の砌、正月十六日の朝、雪の山路も厭はせ給はず、鳳輦をこの古刹に寄せさせ給ひしが、時刻が早かッた爲め一輪も咲いて居らず、供奉の方々恐懼措く所を知らず、坂を下ッて途ある橋の上まで鳳輦を還させ給ひし時、時刻來りて唯今咲き出て候との使者があり、再び鳳輦の轅を廻ぐらせ給ひて古刹に向ひ、親く御覽ぜられしことありと云ひ傳へ、今も其處には「車返の橋」と云ふのがあります、而して今は其邊一帶を稱して御幸村と呼むて居ります。

＊　＊　＊　＊　＊

花子さんとこのお祖母さんは、今日も盛りの櫻花の下、こんなお話をして皆さんを喜ばせて居られます。（たはり）

家政實驗談

# 現金買がよろしい

片岡初榮

家政實驗談と申した處で別に珍らしい御話でもございませんが、唯私が實地經驗致したことを少々申上げ度いと存じます、扨私は二十歳の時に始めて世帶を持ちまして、今日では殆んど十二ケ年と申す月日を過してまゐりました、其間にはいろ〳〵の困難を經まして、唯今ではやう〳〵無事に生活が出來る樣に成りましたが、其長い年月の間は一日も安樂に暮した事はございません、夫れと申すのは詰り收入が少いからでも御座います、否收入が少ないのではございません、經濟が下手な爲めに不足を告げる樣に成るので御座います、お恥かしいお話ですが、毎月收入よりは支出の方が何日も增えますのですから、いつでも月末になると來月こそは儉約を、來月こそはと存じまして、いろ〳〵注意致しますのではございますが、どう致しても月末になると矢張り不足をいたして參ります、夫れだと申して決して餘分のとに出費した譯でも御座いませんが、何分日々の買物は皆通帳で求めますので、遂々現在に出金致さぬため、知らず〳〵不必要の物までとる樣にも成り、又月末に成つても少々位は後の月に繰越しても貰へるから、つい惡いとは知りながらゆだんが出來るので御座います、或時一寸夫れに氣付きましたから、追々と通ひ帳を止めまして、可成現金で買ふ樣に致しました、左樣いたしますと是迄月に五斤使つた砂糖が三斤ですむ樣に成り、そんな都合で萬事が儉約になりまして、まづ〳〵收入丈て間に合ふ樣になりました、其內に少々づゝ收入も增して來ましたのと、又自分でも經濟に馴れまして無駄を致さぬ樣に成りましたので、唯今では貯金の利子ばかりでも家賃位は拂へる樣になつてまゐりました、實に今から考へると、以前はよくあんな無理な亂暴な經濟をして居たものだと存じて悚然致します、若しあの時の樣に毎月毎月支出の方が超過したり、又今月はよほど上手に行たと存じました月でも拂をすませますと殘金は殆んど皆無でございましたが、あんな時に病氣か又何か不幸があつたら明日よりはすぐに乞食でございませう、ですからよくあんな無鐵砲な事をしてまゐつたものだと存じます、誠に今更申迄もない事ですが、お若い方方は此事を御さとり遊して、必ず無駄なことにお金をお使ひ遊さず、一錢でも貯金遊ばして、心長閑にお暮し遊ばす樣にねんじます。

家政實驗談を募ります
言文一致てわかり易く書いて下さい
成るべく簡單に冗句を省いて下さい



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 女子圖按の栞（七）

東京工業學校助敎授　小室信藏

田舍振りと都振り、東京在住の人口二百萬、其内生粹の江戸兒で親代々より東京に住まつた人は幾許もないので、多くは皆地方から出て來た人であります。始めて地方から出たばかりの人達の服裝は如何にも田舍染みて粗豪朴訥に見え言葉のいひ方も起居も總じて重くるしい。さてそれが三月四月と過ぎては何時か見能くなり都振りとなり終せて物言起居とも氣輕に敏捷になり服裝も前と同じ衣類を着て居りましても、何處か引締ッて寸分の油斷もすきもないやうに見えます。かく田舍振りと都振りとの相違の出來る點は何處にあるでせうか。其點が裝飾上注意すべき重要な點ではないでせうか。

地方と都會地との比較を申しますれば、地方では土地の割合に人口が僅少でありまして萬事寛濶になつて居ります。それて住居も大きくまた其周圍には庭もあり畑もありまして一向に窮屈に感ずるやうな事もない處から身の廻りの裝飾につきましても何處となく緩徐に出來て居りますが。反對に都會地では土地の割合に人口が非常に多く從ッて其住家も地積の狹い處に都合よく建てなければならぬ。それでありますから色々と工夫をし智慧を絞ッて間取を考へ手奇麗に造りますので、三疊や四疊半などといふ小さな室が出來るやうになります。其周圍には庭の一間もある處は先よい工合の處で甚きは三尺にも足りない處がありますので、終日隣の板塀を眺めて居なければならぬといふのさへあります。かやうな處で甘じて居るでなければ此のやうな都には居られんといふ生存競爭が自ら行はれて居ります。さうなりますると人の心も激しい混雜の人中であるからと誘惑に犯されぬやう、外へ出ても掏摸に紙入をとられぬやう、又着類とてもそれ〴〵に手入をし着ますときにも、日々の課業中に差支のない丈けに引締るとか、それ〴〵と注意を有しますから、田舍から持ッて參ッた着物を着て居りましても以前とは自ら異ッて見えるのであります。

以上に述べましたのは其一班に過ぎませぬが、田舍振に見えますのは一ッには亦其着類即羽織や上着其他の品々の配色によりますのであります。上着の縞柄に就いて申しましても田舍向として造りますものや、又其地方でその地方限の需用者を相手に造ます品は總じて反映の激しい配色でありまして仕立てた時でも其縞柄と緣廻しとの色の反映は亦激しいに極ッて居るといッてもいろしいやうに思はれます。萬事粗大寛濶に馴れて居るといふ風が田舍に於ける特色でありまして神經が過敏でありませぬから萬事激しい單一な傾があります。食物に於きましても鹽辛いものを好くとか、色合でも酷烈なものでなければ感ぜぬといふ傾きがあります。都會地に於きましては神經が機敏の間にも敏捷に働かなければならぬやうになつて居り、殆んど過敏といッたやうな有樣でありますから色合もさほど鮮艶でなくてもそれを感得し得らるゝので、自然良好な配色を希望するやうになるのであります。併しかく申しましたとて地方が惡いと申すのではありませぬ。自然の傾向はかうしたものと申す次第をお話したまでの事でありますので決して地方の惡いと申すのではありませぬ。知識の方面から申しましても「知識は山間に成り、品性は平野に養はる」と申すことがあります。知識は山間即或意味に於て地方の粗朴の間に諸種の誘惑より遠かッて純粹の知識を得る處と解せられますので、堅固な基礎は山林原野に富んで居り生産の原料の蓄藏されて居る地方に俟たなければならぬのであります。又それ等諸種の原料は交通の便宜を得て、例へば川船まで輸送して參るといふやうな次第で、平野に持來されて四通八達の場所に運ばれ其處にて諸種の製造に使用せられ大に人工を加へられて商賈の手に渡り茲に始めて世間に有用の品物として賣買せらるゝのであります。即此の製造賣買等の事柄が種々に錯雜して行はれて居りますのが都會地であります。地方に於て諸種の有用なる知識の基礎を得てそれを平野即都會の地に於て實地に運用の練習を積みて始めて粗豪な稜々たる圭角も撫肩に優しくなり萬事嫺雅に圓熟して參りますので、修業時代の方々に譬へますれば知識を藴蓄する學校時代は將に此の山間の時代でありまして、其の知能の活動を主とする卒業後或時期迄は品性を養ふの練習時代であるとおもはれます。

▲大廟の朝　　富永才子

空には殘月の影淡く、東天の雲やうやう匂ひそめたる頃、古市の旅やかたをいでゝ大廟にむかふ、あひの山またゝくうちに過ぎて、宇治橋に到れば、鷄鳴はるかに聞えて靈氣身にせまるを覺ゆ、いまだ參拜の人もなき神苑は寂々としておのづから心もあらたまりつ、清き流にちりをはらひて、うや〳〵しく大前に伏したる時の心地「何事のおはしますかはしらねども」の歌さへ思ひいでられて尊としともたふとし。（日記の一節）

## ミシン裁縫

シンガーミシン裁縫女學院長　秦利舞子

世が文明に進むに從ふて、器械力の應用が盛んに行はれることは素よりのことでありますが、何故に器械が用ゐらるゝかと申しますと、これは申上げるまでもない時間と勞力を省くからであります、日本の家庭に於て復雜なる業務は裁縫と云ふことであります、四五人の家族がある家でさへ其主婦は裁縫の仕事に追はれて、日も尙足らぬと云ふ有樣でありますが、これを改良して今少しく時間を取らないで出來ることに致したならば家庭に於ける隙が出來、一家の經營上どれ程の利益があるか斗り知られぬ程であります、其改良は則ち家庭に於てミシンを使用するの一事であります、ミシンで和服を縫ふに當り、手針で縫ふのと比較すれば、三分の一の時間で完全に仕立上げることが出來ます、のみならず手針よりは正しくして立派に仕立ることが出來ます、只絹物の内で縮緬の如き物は多少の困難がありますが、其他は帶でも仕立ることが出來、木綿服の如きは最もミシン縫に適當して居ります、殊に今日の家庭では大概の家に洋服を着ぬ家庭は少うあります、夫が着ねば小供が學校着に着るとか云ふ風でありますが、其家庭に於て主婦がミシン一つ縫ふことを知つて居なければ、洋服の綻を修繕する事も出來ず、ズボンの穴一つさへ繕うに洋服屋の手を煩さねばならぬことゝなつて居りまして、甚だ不便なるのみならず、不經濟のことであります、これからの日本の家庭に置きましては、小供の洋服位ゐは家庭で作つて出すやうにせねばなりません、私の意志にして居る細君が夏冬共に子供は洋服にして居りますが、洋服の方が第一活潑なる運動が出來て、身體の發育によろしきは勿論、非常に經濟につきます、夏の如き小供用水兵服の如きは自宅で仕立れば僅かなる費用で出來、且つ丸る洗ひが出來て、洗濯にも手間は取れませず、着替と云ふてそれ程多く作る必要もありませんが、日本服になるとさうはまゐりません、洗替へると最早や平生着になつて、外出の衣服には適せ　ません、又日本服には外出用に夫れ〴〵着替の衣服を多く備へて置き、女の子供のある家には、幼年時代より衣服の爲めに奢る性質を養ふが如き弊害さへありまして、これからの小供服は男女共に西洋服に移りかけて居りますが、今日では只家庭に於てミシンの使用法を知らない爲に洋服屋に仕立させて、不法な高價のものとなります、故に依然と舊式の日本服となつて居るのであります、然るにミシンと云ふものは新らしい仕事ではありますが、之を習ひ覺えるには何程の時間も費用をも要しませぬ、私の主管して居るミシン女學校では、普通科が三ヶ月となつて居りますが、三ヶ月勉强すれば女兒簡單服位ゐは十分に仕立ることが出來、一ヶ月の費用としては材料代三圓、月謝一圓、合して四圓三ヶ月合計十二圓あれば一通りミシン縫を卒業することが出來ます、其上は高等科で、是れも三ヶ月費せば男兒洋服、學生服、外套位ゐ出來ます、尙研究科の五ヶ月を終業すれば、立派に大人の禮服さへも仕立ることが出來ます故に婦人にして斯樣なる職業を手に入れて置けば、一家の主婦として裁縫上に不自由を感ぜず、時間と勞力とを經濟的に利用して、家庭の費用をも減ずることが出來ます獨立自營の必要ある婦人は、此手藝を覺えて居れば、仕事は幾らもあるのでありますから、自營自活して行くに困る程のことはありません。

▲風　　森田竹子

春野に匂ふ櫻の花の
上ないよ〳〵我ふけば

あな長閑の風よほと
美しき人の微笑みぬ

大海原をわたりきて
岩に砕けてさと吹けば

詩集を持ちて立てる人
涼しき風と喜びぬ

庭の紅葉に吾吹けば
枕おもげに病む人の

おも曇らせて咳ぶきつ
侘しき風と歎きけり

燈火もるゝ窓の月の
透間を己ふき入れば

机によれるうた人の
冷たき風と呟きぬ



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 短文

▲花盗人（一等）　鎌倉　中隈富士子

幾日降り續けたりけん春の雨、昨日霽が堀りたる水流れに、露も未だひぬ雛菊の、葉先浸して紅ひの花唇半開きかけたる姿愛らしう見とるゝ程に、丁々とをかしき音響にふと見上げたる彼方、キラリと光るものあり、ハと目をすへ窺がへば、人ありとも知らでや、恐ろしげなる男子の外垣に添へる隣家の八重桃の花美しきを、枝のまゝ憚りげもなく鉈もて切りてあり、已れ盗人、花の主婦は未だ起き出で給はずや。

▲選者曰　有感有情

▲春窓嘆（二等）　愛知　石川類子

梅、桃、櫻といたづらに詠め暮しゝ間にいつしかあとなく散はてゝ、今は何れを何れとわいため難き青葉の庭にこそなりにけれ、散うせし花をや尋ねらむ胡蝶の三ッ四ッ飛びてふ見れば、花におくれしあはれさの、物事におくれ勝なる身につまされて、いとあはれにろうたしや。

▲選者曰　或は此方一等かも知れず

▲題落花（三等）　京都　古川よね子

時をあらそう鳥の羽音にも、西念寺の鐘の音にも心ひかれし我かどの一本櫻、夜半の雨風に赤き夢のみを殘して、あはれ見るかげもなく面やつれたり、けに嵐まつ間の櫻こそはかなけれ、しかもわが身もかくてふり行くかとそゞろ心ぼそくてなん。

▲選者曰　簡潔なるをとる

▲虹の帶　青森　吉田安子

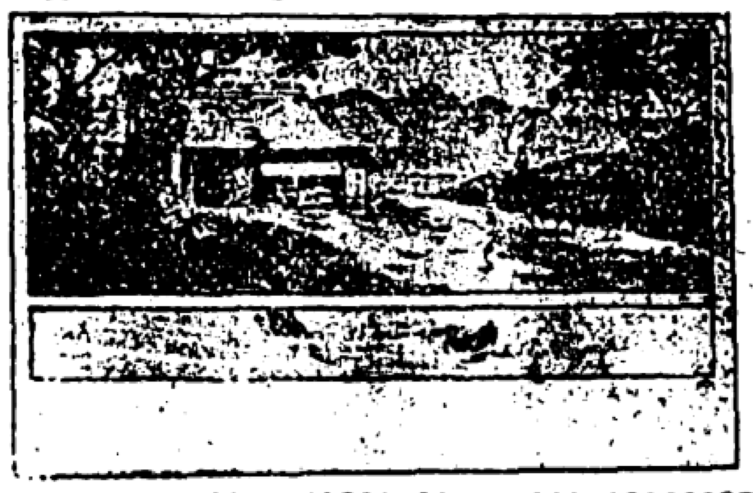
家をめぐる森の若葉に雨晴れて、一しほはゆる夕空に、虹の雲幾筋ともなく流れて寛の姫の機、池面にしたゝる雨の雫く輪をなして廣ごるに、天空の丹と青葉の蔭、ゆれて／＼入りまぢる綾錦の機、妹が涼しい聲して、あれ／＼美くしい虹の帶。

▲山吹の靈　山形　阿部さゐ子

何處よりとなく、しきりに我名を呼ぶ聲なたよりに、たどり行けば、黄金のさゞ波打よする小川の邊に出てぬ、美しの小流かなと眺むれば、對岸に顯はれたる一人の女神、緑の衣をまとゐ、燦爛たる金色の花の冠を頂きて、我をさし招けり、餘の神々しさに頭も上ず、聲も出でず、打伏せば、自然にきこゆる音樂に驚きて目はさめぬ、軒には鳥の囀る聲の聞えて。

▲運命　東京　後藤英子

花と博覧會とで上野は人の山と化して了つた、この雑踏の最中に私も俗な不風流者として立ち交り、清水堂の後の臺から下を眺めて居ると、玩具の覗き眼鏡のやうに、順繰り／＼と替つて行く人の千差萬別、何んの趣味もなければ、詩の材料となるべき價値もないが、唯だ面白いから見て歸つた、その夜更けて床に着いてからフト此事が浮び出て、眠れない、嚼いては考へられる、彼の澤山の人の運命は、三日見ぬ間に散る花の運命よりもまだ脆いのであると、兎角するうち夜が明けた。



天　岡山　武田須磨子

病いえてぞゝろあるきの友に逢ひぬ青葉すゞしき森のほとりに

▲評曰　感冒又感冒久しく閑居せし友人も孟夏清和の候となりて始めて散歩を試みるに逢へるいかにうれしからざらん。

地　石川　原忍子

清水ゆく青葉のかげの草の上に牛をはなちて遊ぶ里の子

▲評曰　畫趣あり順妙

人　堺　金田つるゑ

白妙に梨の花咲くやまもとの若葉のいろのなつかしきかな

▲評曰　是も亦よく實景を寫し出でられたり

○佳調

あさみどりいろ美しきならの葉に夕日きらめく雨あかりかな　福島　島田よしの
めもさむる心地こそすれ雨はれて青葉にのこる露の白玉　大阪　十合貴美子
みとりこき若葉のかげとなりにけり舟よせて見し花の梢は　山形　阿部さゐ子
花衣またほさぬまのひと雨に山は青葉となりにけるかな　北海道　足利りつ子
花をめでしよしのゝ山も夏くれは青葉の外の色なかりけり　岡山　河瀬道子

○甲

たつれ來る人なき里も夏たては都にまさる青葉なりけり　兵庫　下岡松枝
雨のうちに花のさかりはすきたれと青葉の庭もなつかしきかな　三重　諸戸常子
夏しらぬ青葉かくれの我宿はうき世なからもすみよかりけり　東京　安東ちせ子
大空のみとりの色につゝくなり遠の高峯も青葉さすらん　東京　田中まつ子
花ははや跡なくちりてきのふけふ若葉の梢目にそ立ちぬる　東京　長鹽錠子
昨日見し花の梢は青葉さし臺もなくらき庭の面かな　三重　小島駒子
みつ枝さす軒端の木々の朝しめりみとりしたゝる蔭は涼しき　山口　末田竹子
ひとつにもしける若葉とみゆれとも樹をにかはるみとりなりけり　津　中島かつ子
むら〳〵とさ月の雲のたちそめて野もせ山もせ青葉しけれり　北海道　小野寺ちとせ
雨はれて富士の根見えてむさしのゝ木々の青葉に朝日さすなり　東京　龜井筥登子
昨日見し花はあとなくちりぬれと青葉ゆかしき山櫻かな　青森　田島正子
この年は花見かてらにこんといひし友をまつまに青葉しけりぬ　石川　廣野すて子
花鳥にうかれし夢のさめぬまに青葉のしける頃となりにき　岩手　山嶋よね子
花な見し梢ともなし夏くれは岡邊の櫻青葉しけりて　弘前　鉦田正野
山櫻匂ひし春は昨日にて梢のこらす青葉しけりぬ　京都　山本收子
梅さくら青葉となりし夏もなほ吹く風かをる心地こそすれ　愛知　木原貞子
さとはみな今をさかりの養蠶とき青葉かくれに歌の聲する　山梨　中川うめ子
繪日傘のひとむれこゝにとゝまりぬ青葉涼しき山蔭の道　鎌倉　中隈富士子
谷かけはまた鶯のこゑなからたゝ見る山はみとりのみにして　名古屋　名取照子

○乙

窓の外の楓の若葉文みよといはんはかりに枝さしにけり　群馬　伏島たき子
をしむ間に花ちりはてゝ葉櫻の立つけき蔭もまたこのましき　熊本　永田鐵子
ふる雨にいよゝ色こくみゆるかな青葉さしたるきぬ笠の山　群馬　木暮千代子
都なる花にあそひて來つる間に青葉かくれとなれる宿　愛知　湯淺とよ子
花をみに訪ひし山邊の友のいほも青葉かくれになれる頃かな　山口　末田貞節子
薫り合ふ青葉かくれの御社の杜に一聲ほとゝきす聞く　長岡　阿部秀子

▲評　時鳥を主として青葉を客とせられたるはくちなし

櫻花めてし心をそのまゝにまたも青葉の蔭をとひけり　横濱　鈴木松子
雨毎に庭の楢の青葉さしをりたつ今朝の心地よきかな　濱松　萩原さだ子
花見にと通ひし谷の細道もものすごきまて青葉しけれり　京都　磯谷澪子
櫻花霞かと見えしあらし山青葉懷かしき夏は來にけり　堺　金田たつ子
よむ文の上ゆく風の青うして若葉の[illegible]しつかなり　北海道　[illegible]
青葉さし花のかり家も今日は早やかけ見えぬまてなりにける　北海道　足利つゆ子
立よりて見るもなつかし櫻木に花の名殘を見する若葉は　甲府　風間千代子
ねくらにと定めし梅はみとなりて青葉かくれにうくひすの鳴く　函館　安藤青美子
野も山も春はきのふとなりにけり青葉のかけに牛の友呼ぶ　三重　莊司種子
花ちりて青葉のしける梅か枝に聲も淋しく鶯のなく　青森　大橋りや子
妹君をまちしかひなく花ちりて青葉となりぬ庭の櫻は　岡山　石井俊子
若人か青葉の蔭のいすによりて柴笛ふけり文にあきけむ　京都　松岡里代子
みつ枝さす片山林雨はれてしつく凉しく風わたるなり　京都　古川よね子
もゝさくらめてにし花のあともなく庭は青葉のしけりあひにけり　福岡　松村藤子
家の中もほのくらきまて此頃は庭の青葉のしけりあひけり　三重　木俣六女子
笛竹の聲ゆかしくもきこゆなり青葉のかけに人やいこへる　京都　渡邊豐子
梅さくらちりての後の若みとり一あめことに色まさり行く　東京　爪生保子
おそさくらそれもいつしか散りはてゝ只青葉のみしける山々　靜岡　青木朝子
あらし山さくら楓も一つらに青葉すゝしき夏は來にけり　愛知　市橋幾子
いまにしておもへは春は夢なれや青葉若葉の庭の朝風　名古屋　梅村八代子
花紅葉いつれはあれとあらし山青葉しけれる頃そゆかしき　神戸　宇野類子
夏はまた清水のもともよけれとも青葉のかけそこひしかりける　長野　植原千代子
ふみもちてとはぬ日そなき花はちれと青葉のかけもなつかしくして　兵庫　中村益子

○丙

來て見れは花の名殘のしのはれて青葉のかけもなつかしきかな　京都　清水今子
しけり合ふ青葉かくれの窓の内にもるゝも床し文を讀む聲　青森　大橋のぶ子
打むれて青葉の蔭にうなゐらふ吹く麥笛のおもしろきかな　岡山　横川朋子
山はみな青葉はかりになりにけり殘れる花をたつねきぬれと　宮崎　山下武良子
日に添へてみとりの若葉おひしけり月たにもらぬ夏木立かな　靜岡　竹内幸子
鶯は谷の古巢にかへるらん青葉となりぬ梅もさくらも　秋田　細矢はる子
日をかさねふりにし雨に見し花の梢青葉と打かはりけり　東京　戸塚鐵子
白雲のかゝるかと見し花ちりて山もはやしも青葉なりけり　長崎　葛原梅香
庭の面の木々の若葉のしけり合ひてたそかれはやくなれる窓かな　京都　池田美登子
霞と見し花もいつしか散り果てゝ青葉にくらき學ひやの窓　東京　藤田繁子
見る毎にまた戀ひたく思ふなり登る坂路の青葉下かけ　京都　渡邊米子

應募歌數六百八十二首

## 新體詩

▲蒼埠頭（一等）　青森　茂呂その子

鷗しば飛ぶ蒼埠頭
石垣くづれ橋やれて
波物憂げに打寄する。
藻屑絡まる虛せ貝
浮つ沈みつ流れ來て
岸の眞砂を含み行く。
鷗よ語れこの灣の
昌盛ひたりしそが昔
煙に咽せし汝が夢を。
貝よ偲べよ大船の
底に接吻き砕けたる
汝が前の世の面影を。

▲題美人假寢圖（二等）　愛知　市川はな子

風暖き藤棚に
虹うつゝなき四つ下り
朗咏誦する聲絶えて
うたゝね姿うるはしき
牡丹赫灼日に燃えて
汀に鯉魚の躍る時
美しき夢呀とさめて
はたりと落ちぬ朗咏集

天　東京　中隈富士子
青葉して朱塗りの塔の椽哉

地　函館　小川はる子
伸びてなほ瀧に打たるゝ青葉哉

人　京都　磯谷澪子
青葉して鐘の音すごし音羽山

十客

花に此の趣きはなき青葉哉　福井　佐藤とく子
禪僧が若實るまとの青葉哉　名古屋　名取照子
花を見し目に新らしき青葉哉　山口　末田竹子
瀧つほを探し當てたる青葉哉　神奈川　平戸すゑ子
温泉の湯の香もこもる青葉哉　京都　細橋ちくさ
因みある青葉なりけり[illegible]御寺　北海道　加藤つい子
白瀧も太みのつきし青葉哉　東京　菅谷やゑ子
辨天の祠をかくす青葉哉　石川　源基子
みあかしをつゝむ青葉や神の森　三重　莊司みや子
青葉して野飼の馬の太りけり　北海道　河内りつ子

○

紅葉せん色とは見えぬ青葉哉　山口　末田貞節子

鍬すてゝ眠る寶や青葉かけ　東京　慶枚たき子
別れ路や瀧の音遠き青葉茶屋　鳥取　松浦美喜子
温泉の村にゆく道ほそき青葉哉　青森　吉田安子
里に出る道は青葉の挾みけり　靜岡　青木朝子
青葉して見まさる山の姿哉　東京　舟川榮子
櫻井の里なつかしき青葉かけ　石川　小坂夏子
嫩しけに釣糸たるゝや青葉かけ　京都　渡邊豐子
池も又緑に四方の青葉哉　横濱　大谷にしき
青葉山衣更せし姿哉　三重　四山敦子
冬あるを知らぬ色なる青葉哉　京都　池田美登子
御神馬の白き顔出す青葉哉　愛知　市川はな子
朝風につゆちる軒の青葉哉　東京　鈴木榮子
花散て心の散らぬ青葉哉　愛知　市橋幾子
しゝみ貝あさる小川や青葉かけ　山形　阿部さゐ子
かけすてた釣床見へて青葉かけ　京都　松岡里代子
青葉して飯に太る小牛哉　靜岡　萩原さだ子
青葉して住み人代る庵哉　京都　渡邊米子
掛茶屋の滴に宿る青葉哉　愛知　下鄕きみ子
青葉して蒼猶暗き社頭哉　東京　赤澤英子
やはらかう枝さしかはす青葉哉　京都　山本收子
降る雨につれて色ます青葉哉　廣島　山田やゑ子
花よりは眺めは月の青葉哉　東京　藤田繁子
小雨してけぶる水車の青葉哉　東京　板倉學子

▲選者吟

雨風にもまれてしげる青葉哉

第五十四作歌募集
題　杜鵑
選者　大口鯛二氏
規定　一人一首用紙繪葉書
五月廿日發行本紙上に拔萃
天地人當選者に募集繪葉書附呈

第四十五短文募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　總振カナ附用紙繪葉書
五月廿日發行本紙上に拔萃
一二三等當選者募集繪葉書附呈

第廿五回俳句募集
題　杜鵑
選者　編輯局同人
規定　一人一句用紙繪葉書
五月廿日發行本紙上に拔萃
天地人當選者に募集繪葉書附呈

第卅二回新體詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　短きもの用紙繪葉書
五月廿日發行の本紙に拔萃
一二三等當選者募集繪葉書附呈

締切五月五日限り



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 廣告

御園白粉は『長谷部仲彥』氏の發明に係り忝くも畏き邊りの御用命を戴いて調進し奉る本邦無比の完全なる無鉛白粉で鉛毒の恐るべきを知り衛生を重んぜらるゝ御婦人方は必ず『御園白粉』を用ひねばなりません

**ねり製　御園白粉**　（壜入金貳拾錢。金卅五錢金七拾五錢。特製金參圓金壹圓。金五十錢。樂屋用金五十錢）

純白と淡紅色との二種あつて。『濃化粧』にも『薄化粧』にも隨意に用ひられます。肌に『附着』の好い事と『伸暢』の能い事は勿論。寒中でも『冷り』とせず。夏向に乾燥ても『斑』ならず。幾度重ねて附ても際立つ事がありません。又俳優其他の舞臺用は固煉製の『樂屋用』があります

**水製　御園白粉**　（壜入金貳拾五錢）

薄化粧に用ひ純色と淡紅色との二種あつて効能はねり製と少しも異りません

**粉製　御園白粉**　（紙包金拾錢　特製金五拾錢）

純白と淡紅色との二種で『ねり製』や『水製』を用ひた上へ刷子で刷きつけて顏直しに用ひ。又は『洋風化粧』に用ふる粉白粉であります

『洋風化粧』の仕方は先づ掌へ『御園の蕾』を少量取つて顏と襟へ極薄く塗つて柔かな紙か布で拭き取り。その上へ『御園白粉』を刷子で刷きつけ。それを滑い薄革（セーム革の類）か又は柔かい布か紙で輕く拭くのです。これは洋風の最も進歩した化粧法であります

**クレーム　御園の蕾**　（錫入金拾錢。金貳拾錢。金五拾錢）

本邦人の皮膚に適應する特効ある藥品のみを以て調和して精製した『クレーム』で平素生毛の一ぱいに生へて居る西洋人の使ふクリームや。それを模造して油で拵へたクリームの類とは全く其性質を異にした肌理を濃やかにして白粉の附着を能くする。無類特種の白粉下であります

**打白粉　御園撫子**　（紙包金拾錢）

御園なでしこは顏直しをする時に下の化粧をくずさずに用われる顏ふき用懷中うち白粉で夏冬ともに無てならぬものです　皮膚に特效があるばかりでなく。汗母に特効あり殊に腋臭に用へば直に忘れた樣に癒ると頗る評判の高い打白粉です。

**高貴御化粧水　御園とき水**　（壜入金拾五錢。大壜入金五拾錢）

煉製御園白煉を薄化粧に用ふ時と樂屋用の固煉製御園白粉を溶き伸す藥水であります。又普通の化粧水として肌理を濃やかに艶を麗わしくする特効があります

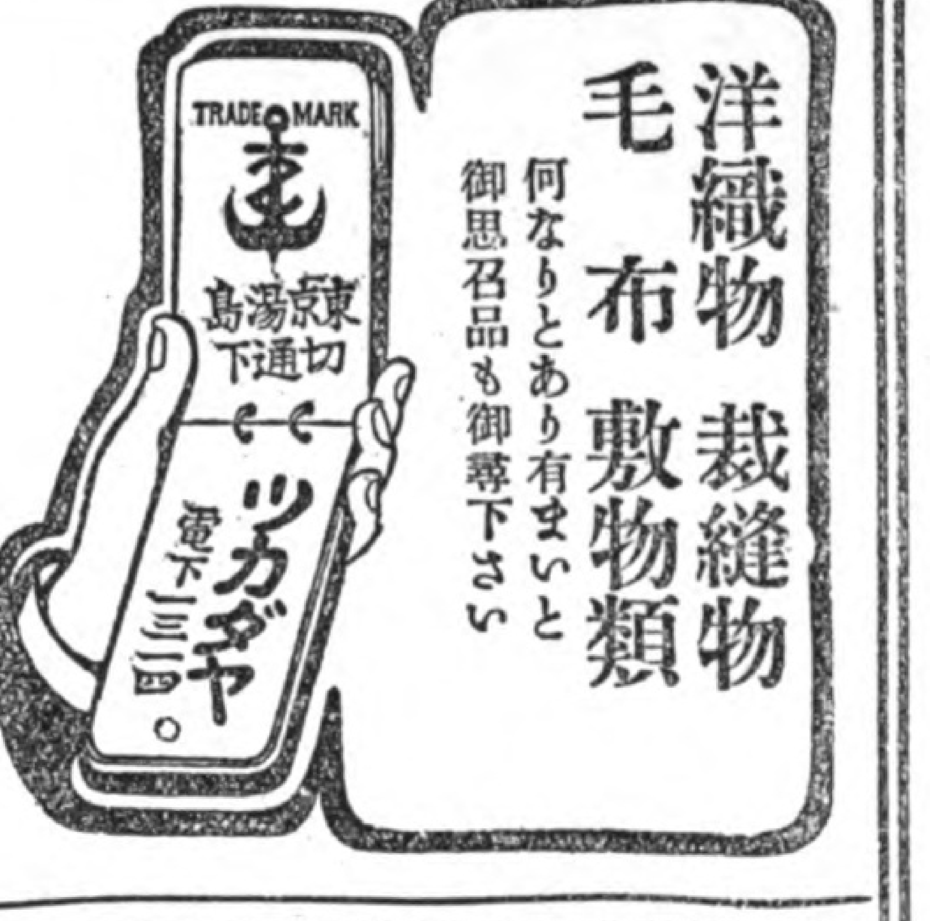
**濃厚御化粧水　四季の花**　（壜入金貳拾錢。大壜金五拾錢）

濃厚特製化粧水として天下一品の化粧水であります。皮膚のあれを癒すは勿論。凍傷。皹裂。龜裂。日にやけ。汗母等に特効があるの外。蚊や蚤や又は種々の蟲に螫された時。若くは火傷した時に綿にしたして局部へつけて置くと痛みが去つて跡に斑が殘らずに癒り平素之を用ひて居ると皮膚の艶を麗わしく肌理を濃やかに美くしくし顏に小皺のよる憂ひがないとて頗る評判の高い無類の化粧水であります又『かくし化粧』には『四季の花』を少しく多量に塗つて乾いた後堅く紋つた手拭でふき取るのです。ふき取つて效能には變がありません

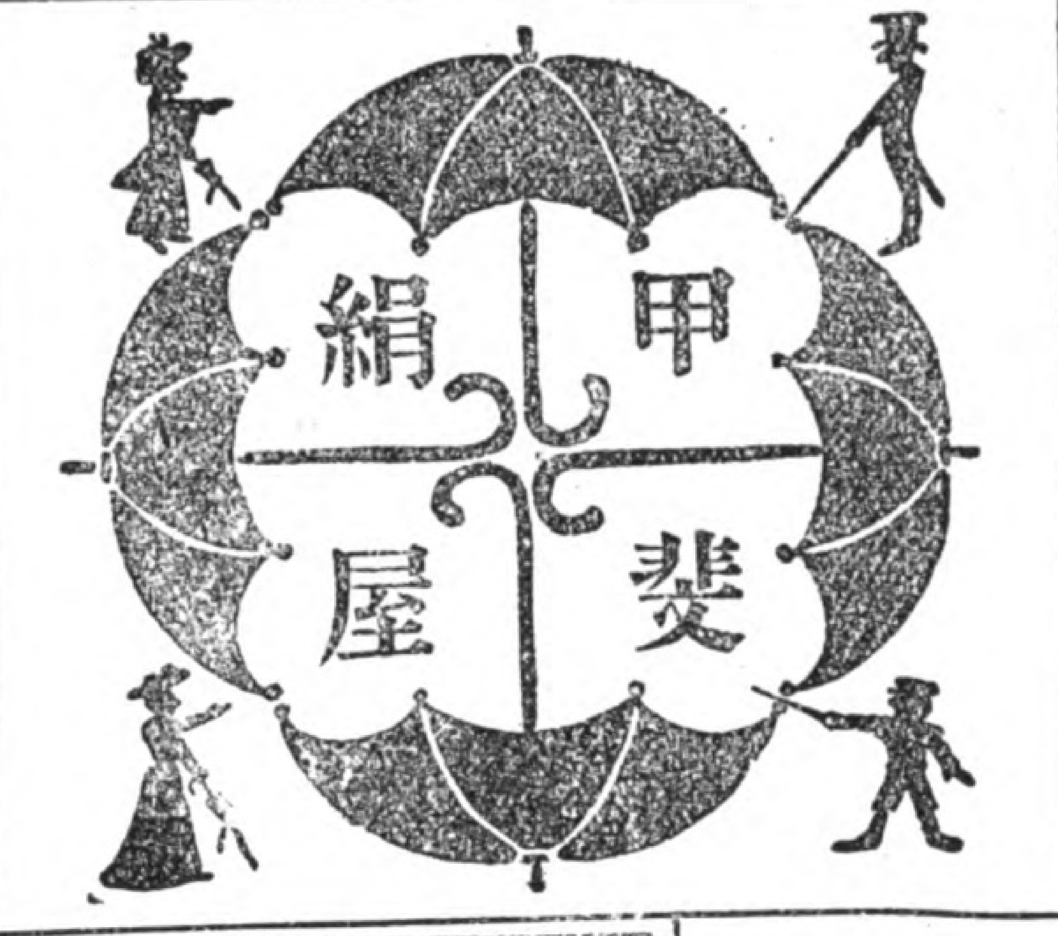
**高貴齒磨　御園齒磨**　（硝子器金五拾錢。紙包金貳拾錢）

齒牙を保全し口中を淸涼にする最も進歩した原料のみを以て調劑したもので普通の齒磨は之に炭酸マグネシヤと澱粉を多量に加へて量を多くするので則ち普通最良の齒磨中に含む主要有効の藥品のみ故に普通の齒磨の如くに多量を用ふるを要せずして齒牙の保全と口中の淸涼と精神を爽快にするの目的を完全に達し得らるゝ最高等の齒磨であります

◉以上の外御園香水（金三圓。金五圓）御園香油（金五十錢）御園粉石鹼（金一圓）御園洗粉等の高等化粧品を。全國到る所の化粧品店。小間物店◉賣藥店で賣捌いて居ます




最新着荷
夏季用帽子
及手袋夏ショール
小供帽子
其他新品多數
東京神田區小川町通裏神保町一番地
中久商店




御半ゑり新もよういろ〳〵
ゑり善
日本橋區通ふきや町　電浪一二七〇番

東京勸業博覽會第一號館小間物組合出品部出品

東京勸業博覽會第三號館出品
及不忍池畔雪見橋際販賣店新設仕候

本店　神田小川町通り（電話本局二八五三）
出店　新橋博品館階上　横濱出張店横濱館　及赤坂田町五丁目支店

**杉原耳鼻咽喉科醫院**

生義多年東京醫科大學耳鼻咽喉科に勤務の處今般辭任の上專門診察に從事す

診察　自午前八時至午後三時　杉原正壽

自宅修業　**和歌初學者募集**

講義錄月二冊送呈添削質問應答一年卒業
謝儀半年分壹圓半●一年分參圓●會則貳錢
●講義綠見本拾錢●創立十五年
東京京橋南傳馬町三の十七　速成作歌學會

東京博覽會第一號館化粧品組合內出品

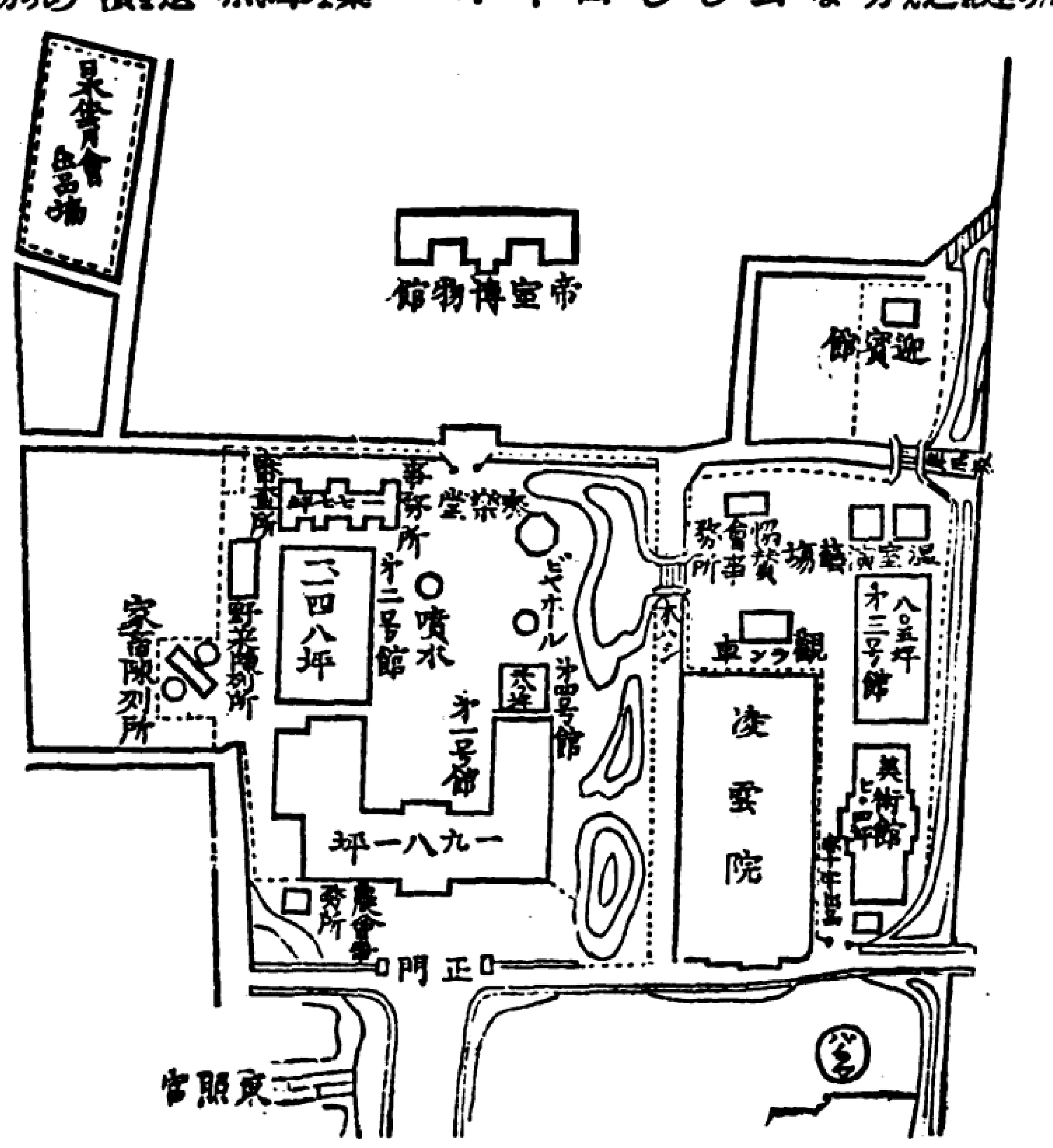
雜報

## 恩賜と海軍廢兵

明治三十七八年の戰役に參加し戰鬪負傷の結果免官免役となりたる陸海軍下士卒に對し、皇后陛下より至仁至慈の思召を以て白フランネル襯衣幷に御菓子料若干つゝ御下賜ありしこと既に再三に及びしが過日も亦昨年七月以後免除となりたる海軍下士卒六名に右御下賜の恩命ありたるを以て海軍當局に於ては夫々傳達方取計ひたる由之にて海軍廢兵の分は悉皆御下賜濟なりと承はる因に云ふ海軍下士卒にして此の恩賜に浴したるもの總計百四十六名にして內下士六十三名卒八十三なり

◉靖國神社大祭彙報　來五月一日擧行の靖國神社大祭に付き上京の各遺族に對し赤坂、濱の兩離宮を始め新宿御苑及び博物館、動物園の拜觀を同月三日より向ふ四日間午前八時より午後四時迄差許する旨十一日宮相より陸海兩相に通達し來りたりと△又た參拜通達書約三萬通は十一日にて全く發送濟となり遞信省は特に書留郵便と同樣に取扱ひをなしたりと

◉看護婦の合祀　日露戰役の際日本赤十字社より戰地に向け派遣したる救護員の總數は實に四千八百五十四名に達し凱旋後生存者に對しては夫々賞賜を行はれたるが右出征中不幸にも病の爲めに命を隕したる百七名の內看護婦長二名看護婦二十名は全く公務に基因せる疾病の爲めに死沒せるものとし特旨を以て來る五月執行の靖國神社臨時祭典に合祀せらるべき旨十五日の官報にて發表せられたるが婦人の合祀されたるは始めての事なり



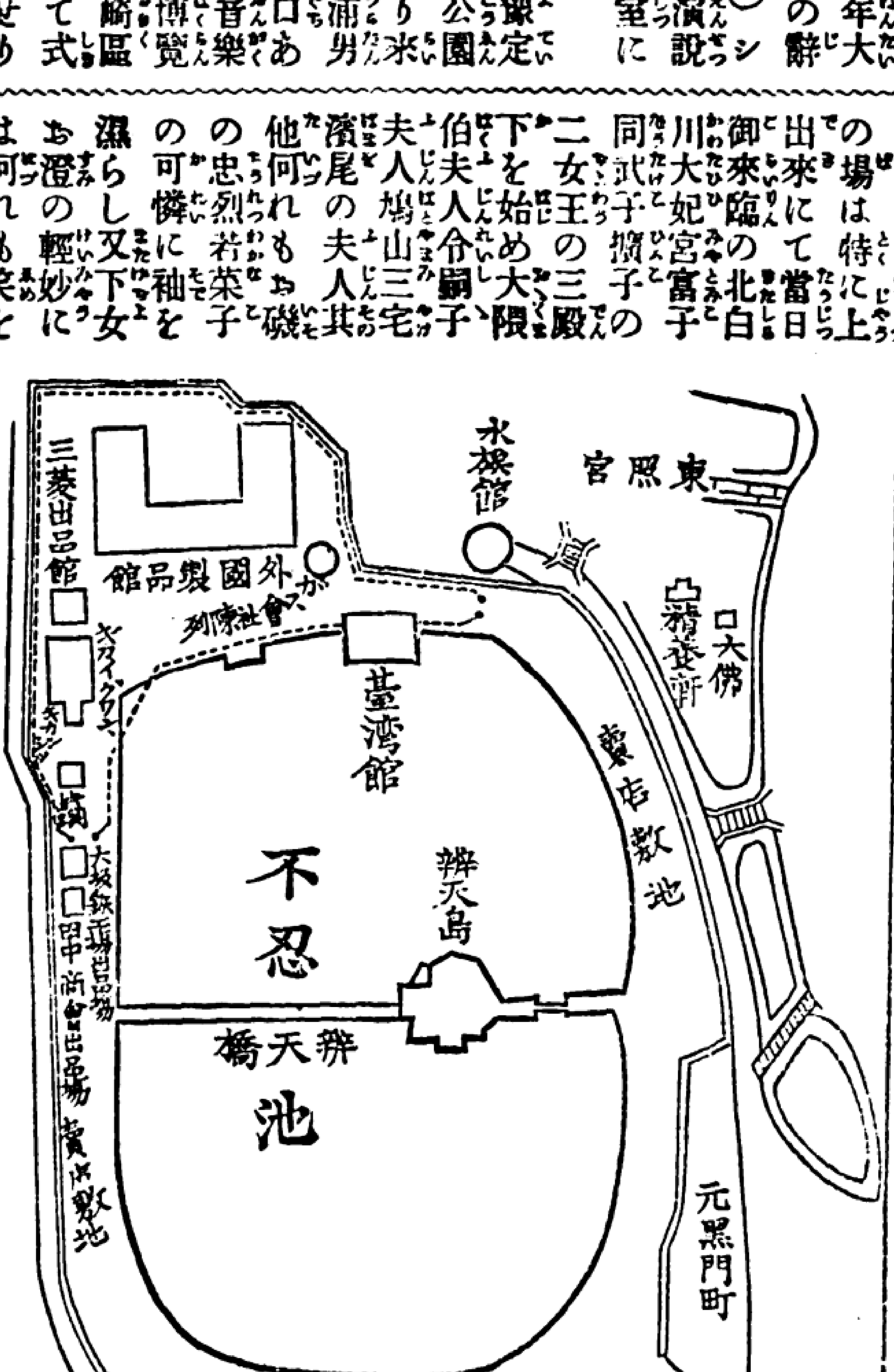

◉ブース大將の來朝　救世軍總督ブース大將は去る十六日橫濱着港十七日午後四時五十四分新橋着汽車にて上京直ちに帝國ホテルに入り同五時三十分京濱間各新聞通信記者招待會に談話を試み翌十八日午後七時三十分より東京座に於ける歡迎及講演會に臨み「救世軍の過去現在及未來」の演題下に講演をなしたるが明廿一日には午後三時及七時三十分晝夜二回の大救靈會を執行し廿三日は學生の大集會を開きて之に臨席する由

◉萬國女子青年會　萬國基督敎青年會大會開會の第二日即ち去る四日午後二時半より麴町區富士見町敎會にて萬國女子青年會講演を鈴木ウタ子女史司會の下に開會され、讃歌、聖書朗讀、祈禱の後、英國女子基督敎青年會幹事ソーンダース孃は先づ登壇して學生に宗敎の必須なることと基督敎の人心に及ぼす感化の大なることを說き且つ人々の基督の生涯に接觸せんことを勸めて降壇、次て米國バーチモア女子大學長ガウチャー博士は登壇して家庭に宗敎の必要なるを論じ、殊に母は小兒に及す感化大なれば世の母たり母らんとするものは自己の責任を全ふする爲め一層宗敎を要すと說きて列席の人々に多大の感動を與へたり

◉婦人敎育會總會　毛利公夫人毛利男等の發起に係る婦人敎育會は去る十五日午後二時より華族會館にて春期總會を催したるが會員出席百六十六名、外國人出席五十五名（萬國學生基督敎青年大會出席者）にして毛利會長開會の辭を述べ夫れよりフワイレー（和蘭人）シング（印度人）ラヲス（米國人）諸氏の演說あり會員一々日語に通譯し終りて別室にて茶菓の饗應を爲し五時過散會せり

◉婦人博覽會の開會式　同博覽會は豫定の如く去る十四日午前十一時より芝公園會場內演藝場に於て開會式を擧行せり來會者は板垣伯爵夫人千家男（代理）淸浦男爵夫人尾崎男爵夫人、嘉悅孝子、井口あぐり女史を始め二百餘名にして女子音樂隊の奏樂の後直原事務長の報告婦人博覽會協會總代山脇女史の開會の辭川崎區長の祝詞出品人總代の答詞あり是にて式を閉ぢ次て立食の饗應あり正午散會せり扨て出品は三千五百點出品者五百十七名なるも旣記の如く東京部は略ぼ陳列濟となりたるのみにて地方部は殆ど全部未濟參考部も亦た一部を開きたるに過ぎず實演部にては麥藁帽子及び造花のみ一般縱覽者は十五日午前九時より入場せしむる筈なるが場內の整頓するは本月下旬ならんか當日の出品中來賓の最も注意を惹けるは小笠流禮式順序の寫眞及び造花實演等なりし

◉日本女子大學校第四回卒業式は去る十一日午前十一時より同校講堂にて附屬高等女學校第六回卒業式と兼ね行へり先づ君が代の合唱麻生學監の報告に次て高等女學校卒業生八十三名大學卒業生家政學部八十八名國文學部四十五名英文學部十九名に卒業證書を授與し成瀨校長の告辭澁澤男の財務報告、高女卒業生一同の唱歌及總代橋本花子の謝辭大學卒業生總代大久保靜子（國文科）の謝辭並に一同の唱歌等あり別室にて晝食の後文藝會に移り家政科生の活人畫（大和小女）英文科生の對話（永久の生命）家政科生の對話（磨かずば）其英詩暗誦、唱歌等ありてとり〳〵に面白かりしが就中「磨かずば」第三幕嵯峨家奧の場は特に上出來にて當日御來臨の北白川大妃宮富子同武子擴子の二女王の三殿下を始め大隈伯夫人令嗣子、夫人鳩山三宅濱尾の夫人其他何れもお磯の忠烈に若菜子の可憐に袖を濕らし又下女お澄の輕妙には何れも笑を漏せり演了後一同バザーにて思ひ〳〵に生徒の製作品を買ひ求め漸次退散せるが當日の重なる來賓は前記の外に大隈伯土方伯石黑男澁澤男久保田前文相坪井元良和田垣の三博士淸水醫科大學々監等にして頗る盛んなりき




◉春日局の遺物展覽　德川三代の將軍家光を二葉より守立て能く十五代の基礎を固めしめたるは家光が英武なる天資に依ると雖も亦たその保姆たる春日局が敎養の功も與つて多し春日は普通女子として婦德全きや否は第一に措き兎にかく德川氏に効ある事は掩ふべからず本郷湯島天澤山麟祥院は春日が歸依僧渭川和尙を請じて開きたる禪刹なるが今回博覽會を機とし春日の遺物を陳列し七月末まで世人の縱覽を許すこととなせり陳列品は多く春日が手澤の存する日用調度の物に屬し消息等をも見受けたり朝鮮畫沙と同く牛須の抹茶に碗、靑磁の大香爐、高麗白手の香爐「浮熊三年南京風爽」の銘ある鐵製竹虎鑲嵌の菓子器の如きは共に拜領品なるが多く見ざる逸品なりとす食事用の高卓の如きはその榮華を極めたる跡をも窺ふべし春日局の肖像は彼が生前に深幽に命じて寫照せしめたる物といへばかその顴骨の高くして眼光のぎろりとして一癖あるべき樣なり消息なども數卷ありしが酒井讚岐守に與ふるものを以て尤も美麗とす最と雖も散し居したるも餘ほど古き所なれらひたるものと見えき尙家光の恐縮も數幅ありしが「きくやいかにうはのそらなる風だにも松におとするならひありとは」の一首尤も面白し柳生但馬守の襯如きも尙高き物にて但馬守が澤庵和尙に參しその法を得たる時に澤庵より授けせられたりと云ふ一體但馬守の遺物は下谷興隆寺か品川の東海寺に在るべき筈なるに如何なる故にか天澤山に納めしか思ふに春日は最初に澤庵和尙に參し又仙洞へ澤庵を薦めたる事も實に春日が第一に發議して家光に說きたる因緣もあり且は但馬と親き道交ありたるにも依つてならむかそはとにまれ百餘點の陳列品共に德川初世の史料にも資すべく觀者をして少からざる感興を起さしめぬ

◉新意匠の浴衣　はさなみ織と云ひ土耳古風呂浴衣より思ひ付きたるものにして寢卷、病服、浴衣として用ゐらるべく富士紡績取締役川崎榮助氏が實用新案を得たるものなり二尺幅のタオルを以つて作られ外國品に比しては毛の柔かくして肌觸り良きと手縫の上にミシンを施したるなどの念の入りたる點に於て優れり價は三圓五十錢以上數等あり



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## シンガーミシン

内をあけて通學に出かける暇の無いお方の爲めには東京と横濱の兩市内ならば

# 無報酬出張教授

即ちシンガーミシン裁縫女學院の卒業生を、今回ミシンを御求めなされます方の自宅へ出張させて、ミシンの使ひ方から、裁ち方、縫ひ方に至る迄、一切教授して家庭向の和洋ミシン裁縫の出來る迄御世話致しますのに先づ

和服も縫へる

家庭向婦人專用

## シンガーミシン

廉價 月賦大販賣

○申込金 參圓

○月賦額 五圓均一

更に特別減價 一時即金拂

第二の便法は

出張敎授よりも通學したい方へは今回御申込の御婦人に限り東京、横濱の方でも、他地方の方でも、シンガーミシン裁縫女學院へ御入學の御世話を致して、其月謝と束修とを弊社が負擔致します

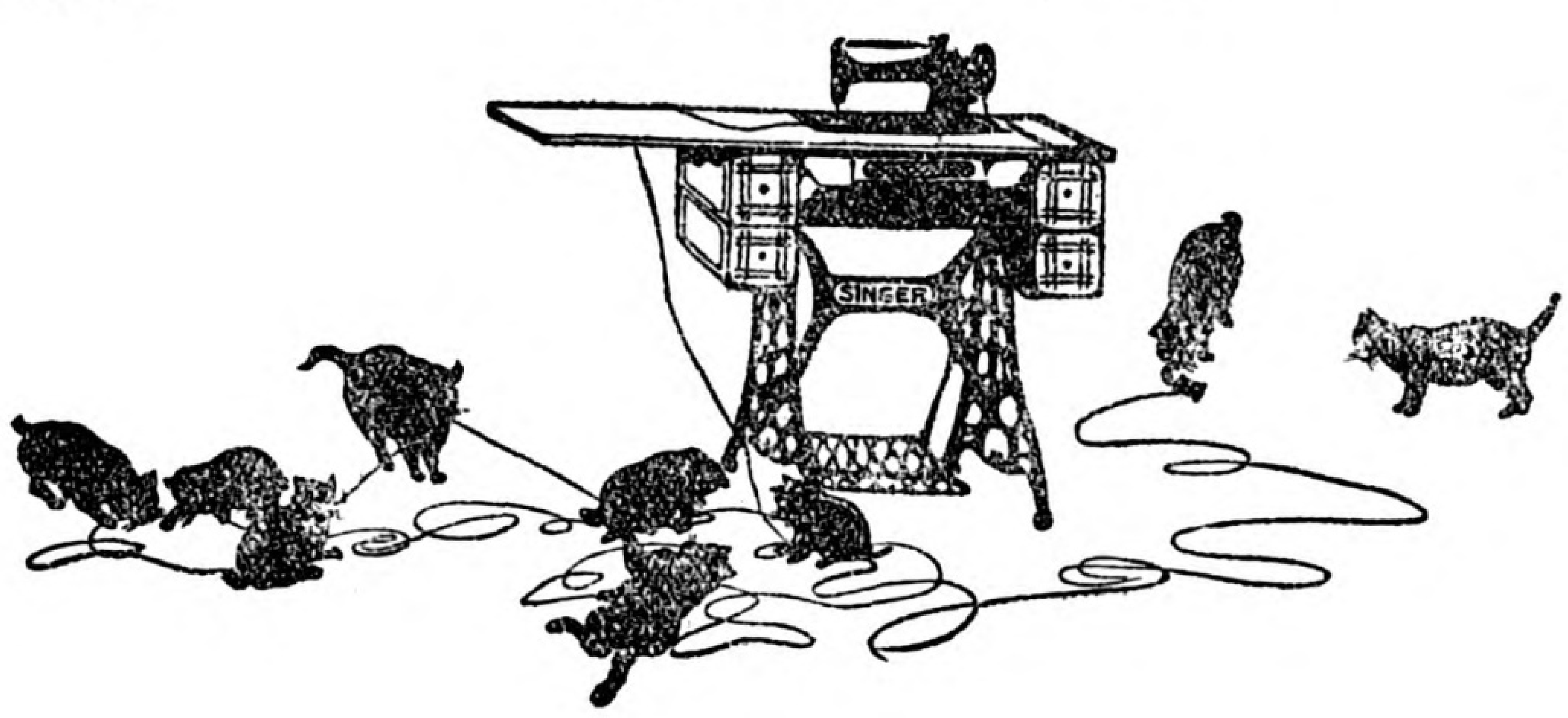
**御申込期限甚だ短し**

明細書 御申込次第無代進呈す

シンガー裁縫機械會社

京橋區銀座三丁目 東京支店（電話新橋三四六六番）

▲御注文の節には「愛國婦人を見る」と御記しください▼



最新柄

京染新柄御半ゑり

東京博覽會不忍池畔彫工會聯合賣店內出店

東京日本橋通り三丁目六番地

[illegible]

電話本局二千九百四十七番

## 新公論

毎月一回 一日發行

第四號目次大要

女學生を如何に教育す可き乎（寺田勇吉）
漢字排斥の理由（前島密）
投機的時代精神（廣井辰太郎）
教育界の根本弊（向軍治）
我國移民の現在と將來（巖本善治）
文體（末松謙澄）
板垣退助と市川右團治（人物評論）
自然美の沒却（武內桂舟）
法廷の苦心（今村恭太郎）
福地櫻痴の親の話（林董）
英國人の樂天觀（千里行者）
戀の片影（小說）
妾が半生の懺悔（村瀬時子）
萬報一覽
韓國統治難（伊藤博文）
名士の成功失敗談（外四十餘名家）（天囚）
世界の諷刺畫（いよいよ出て）
公論文藝（奇警例に依て）賑也

定價一部郵便稅共金拾五錢

發行所 東京本郷區東片町百十一番 新公論社

## 東京買物用達合名會社

東京市神田區千代田町（電話本局八九四）

| | |
|---|---|
| 地方に居なから東京に住むと同一の程度にて日用品を買求むる法ありや | 當會社は東京に於て賣れる商品は如何なる商品にても其の買入に盡力す |
| 地方に居なから流行に後れぬ品物を買ひ調へこれを送て來れる處ありや | 當會社は最も信用ある店に付て日々の流行品を調べたる上買入に盡力す |
| 廉價にして且つ正確に又た迅速に注文せし品物を買つて呉れる處ありや | 當會社は現金を以て問屋營業者より直ちに買入れるにより廉價に買はる |
| 東京勸業博覽會に出品せし品物を地方に居ながに買つて呉れる處ありや | 當會社へ買入方申込の向は其品名分量品質色合使用定價向を示されたし |
| 新聞及び雜誌に廣告したる品物を定價の五分引て以つて買ふ工風ありや | 當會社は歐米に行はるゝ郵便購買の方法によつて新式の營業法を營めり |
| 現金を直ちに出さないでもハガキ一枚にて物品を送つて來れる處ありや | 當會社は正札あるものは其正札より五分引にて買入る事に專ら盡力せり |
| 歐米にて流行せるパテートメンストワの組織て商買する店他にありや | 當會社は所謂る無限責任の會社にして正實なる事は其商標に示すが如し |




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 時勢が要求の最新發明台所道具

◎農商務省特許 **小原式五用火器**（一名五用かまど）

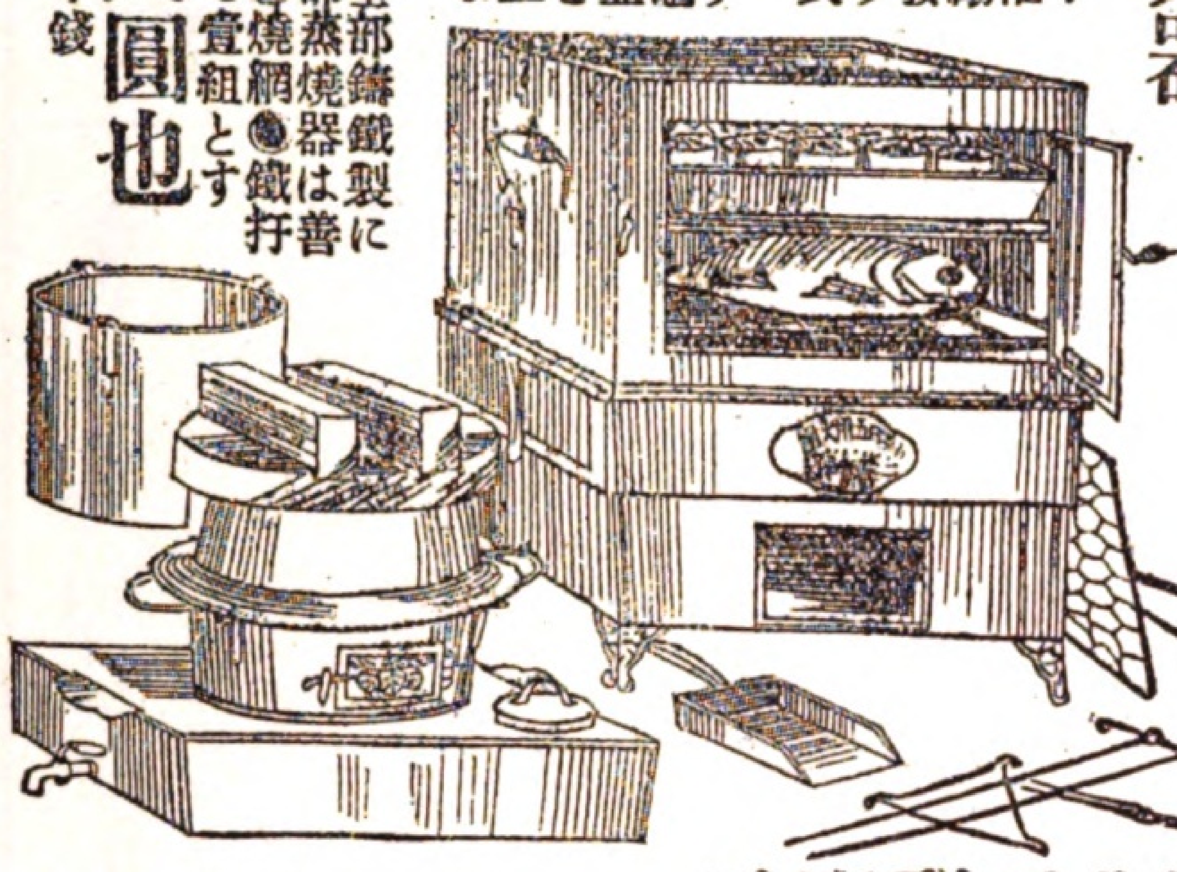
特許局工業所有權保護協會 懸賞發明二等當選

本器は昨年一月より六月三十日に至る六ケ月間工業所有權保護協會に於て本邦發明奬勵の爲め懸賞を以て臺所道具發明を募集せられ全國各地より應募する數多發明品中より其選に當れるものにして◎第一飯を炊き及竈一切の用を辨ず◎第二泥爐に使用す◎第三竈及コンロに使用しながら銅壺に湯を沸す◎第四普通燒物をなす◎第五蒸燒をなす右五種に使用して便利實に此上なきものなり

◎本器は下部火室及釜掛の全部鑄鐵製にして銅壺は銅を以て製し上部蒸燒器は善良なる錬鐵を以て製し其他◎燒網◎鐵扞◎重能◎五德◎取著◎を以て壹組とす

**壹組代金拾四圓也**

◎地方送り荷造費一組金六十錢



製造發賣元　東京市淺草區諏訪町壹番地（長電話下谷八三一番）

**小原商店本店**（振替貯金口座七貳六五）

三個入壹箱毎ニ景品券壹枚宛差入あり

# 日光遊覽無料券附

ニツケルかん入 **松澤ホーサン石鹼發賣**

◎發賣は四月五日より廿五日迄◎數は僅に壹萬箱賣切ない內買求を乞ふ

◎籤引にて貳百名日光行に當り其他の方へは（化粧の友）を申本を進呈し升

◎市中賣藥小間物化粧品店にあり◎品切の時本舖へ注文あれば屆け升

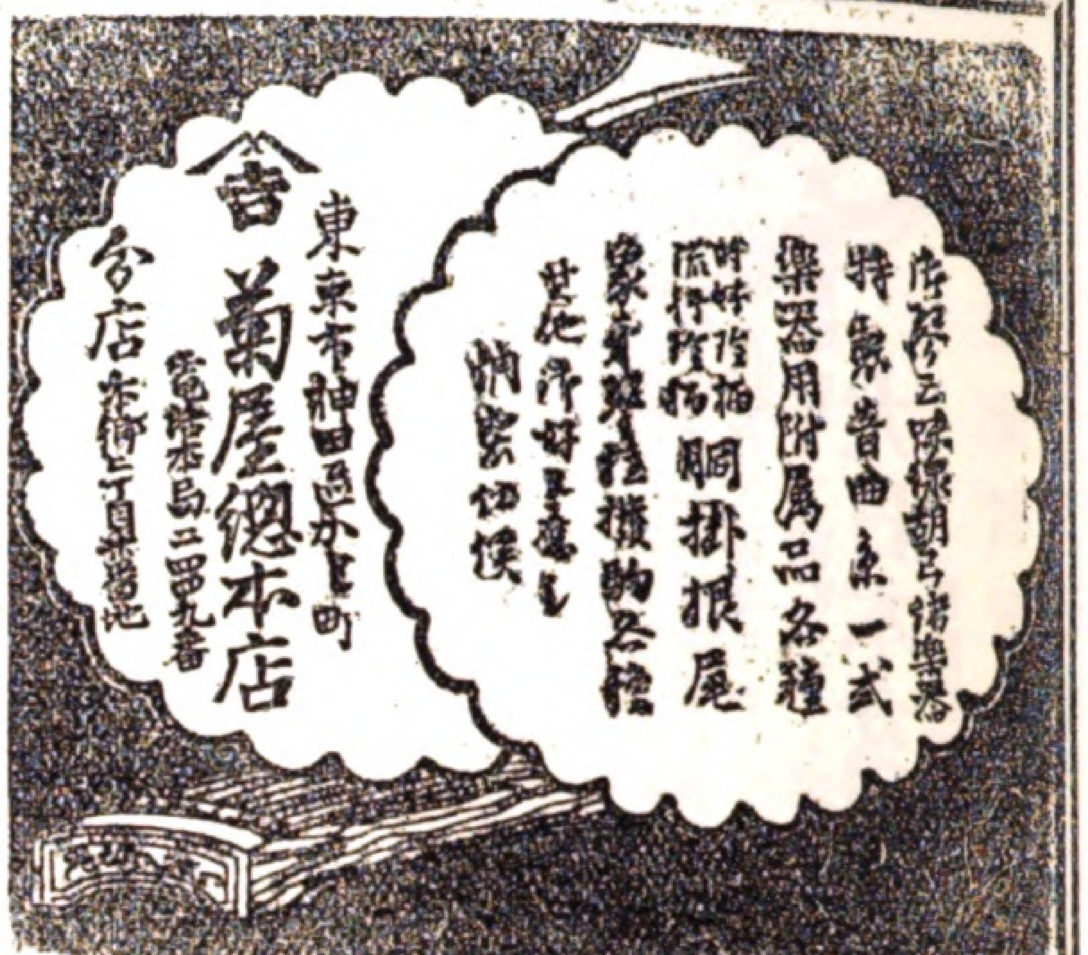
◎直段は鑵入三個入壹箱正價金六拾錢

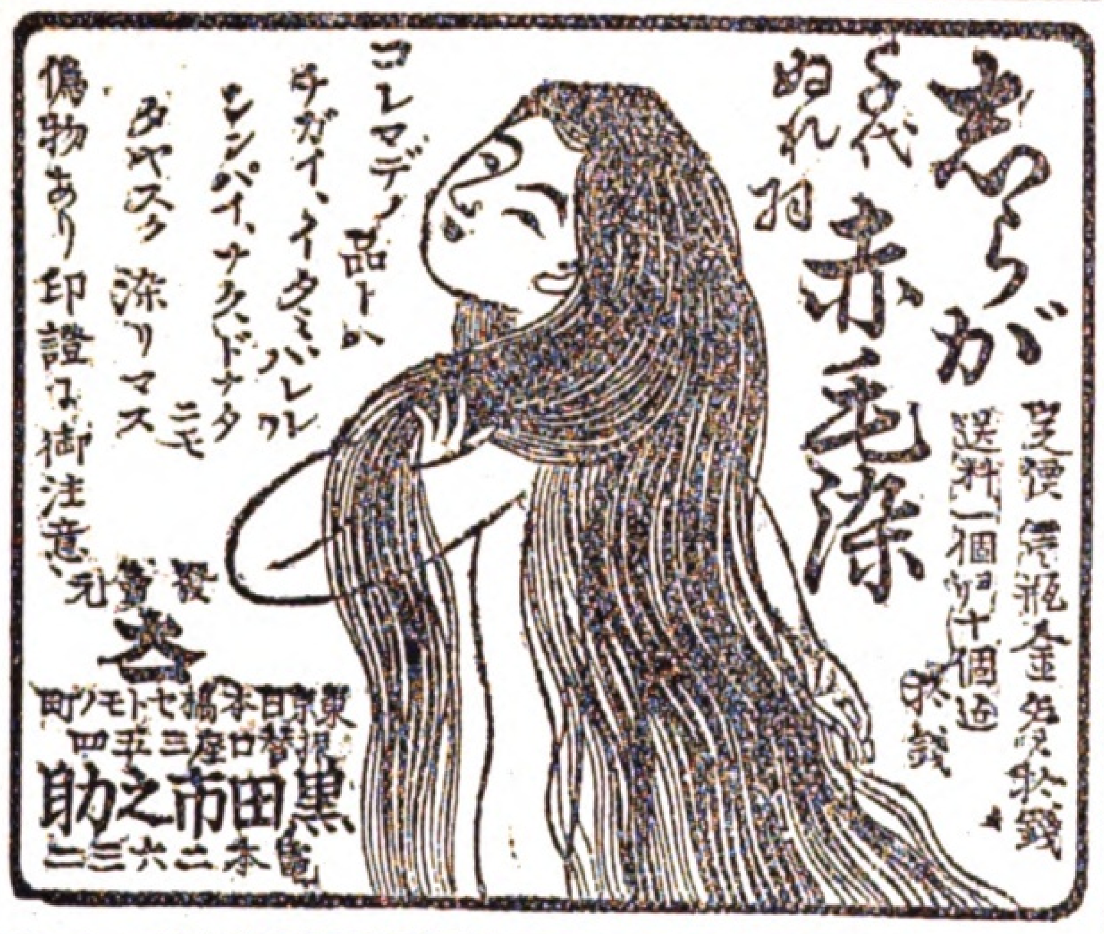
一本舖　東京日本橋區本石町四丁目　**松澤常吉**

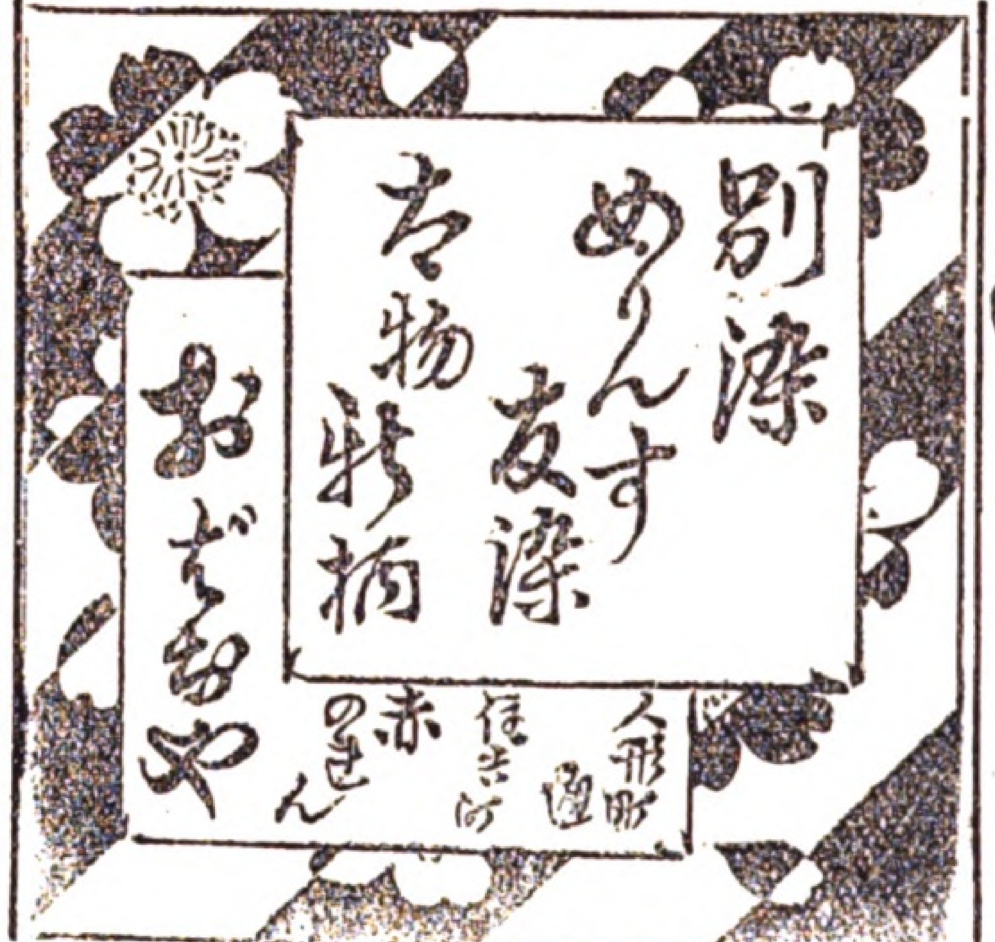
日光行ハ上野驛

五月十二日（日曜日）出發

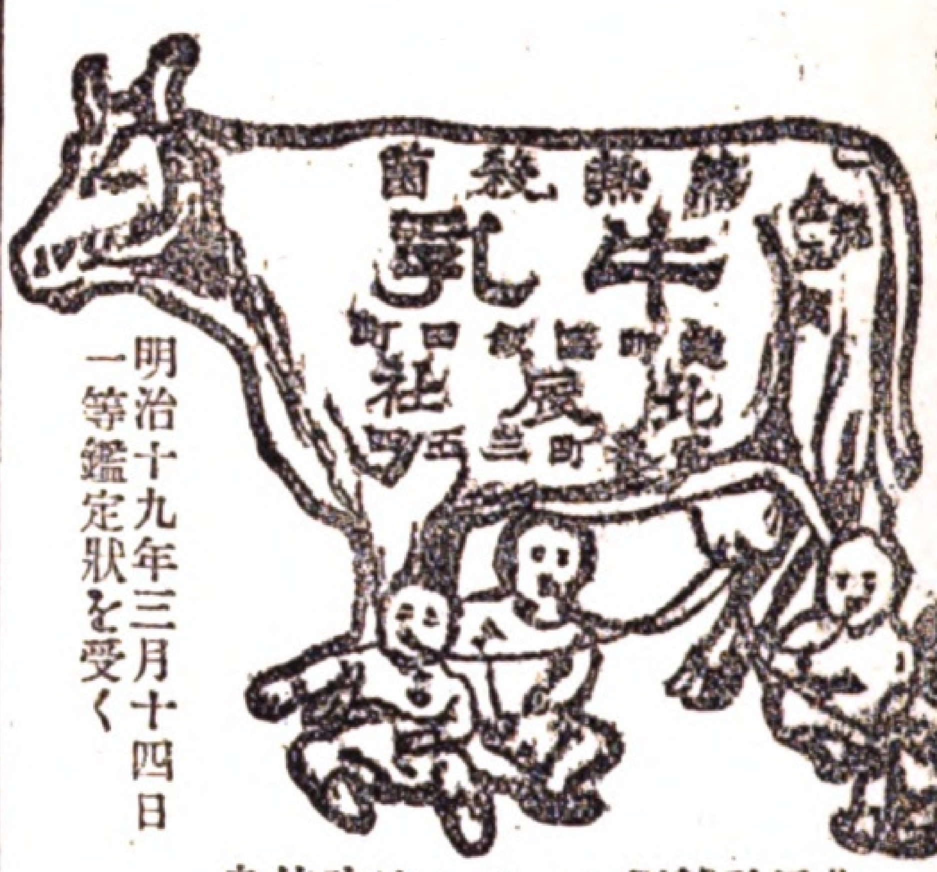
東京勸業博覽會第一號館第十四部出品





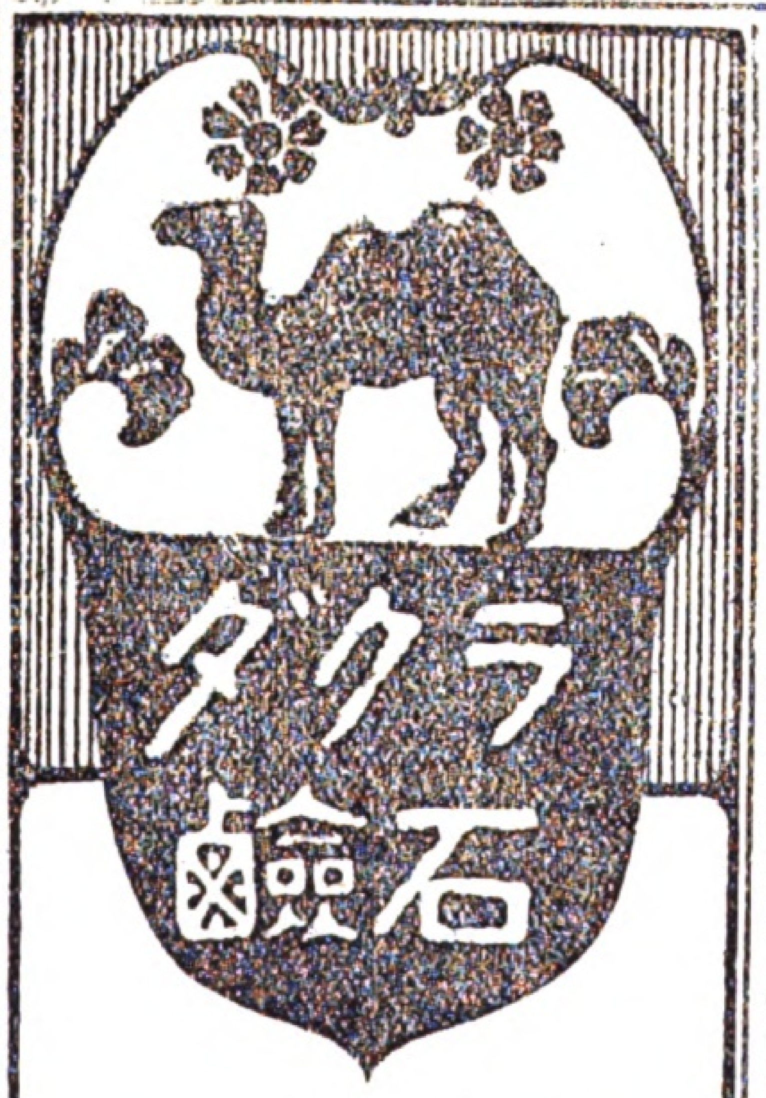




北辰社牛乳は最も滋養に富む
明治十九年二月十四日一等賞を受く




明治十九年三月十四日一等鑑定狀を受く

北辰社精製のバターは味佳良




**ラクダ印麝香石鹼**は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかほりを失はざる一大特點を有す

定價　大形廿錢　小形十錢

芳香藥種問屋　東京日本橋區本石町三丁目　本舖　井上太兵衛

## 補血良劑

# ヌポール無味肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして少しも惡臭を存せざるのみならず飲用に適すに清快なる香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服用する事を得べし

○品切の處漸く今般新荷到着仕候間陸續御愛用ヲ乞フ

東京日本橋區本町四丁目

**合名會社島久商店**

（電話本局特四九一）
（電話本局三〇一八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲正定價引なし

●第五回博覽會褒賞受領

營業品目
特許竈各種●特許据風呂
特許テンピ●特許水焜呂
實用暖爐●鍋釜品々

日本橋區蠣殻町二丁目十五番地
神田泉町通松永町十八（電浪一一七七番）
名和本支店

商品案内
無代進呈

○金側兩蓋之部　流行婦手形
價三十三圓　瑞西國大金側御婦人持
價六十九圓　瑞西大金側中形紳士持
價七十九圓　米國製大金中形紳士持
價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓　米國製18金彫18紳士持

○銀側兩蓋之部　流行婦手形
價八圓半　瑞西石入向爪アンクル
價十圓半　同懷石卷上向アンクル
價十三圓半　同嘉三枚懷石卷上向爪
價十四圓　米國中型付切天武向爪
價十七圓半　米國中型付上等品

東京市京橋區銀座一丁目
電話新橋（一二三三）
伊勢伊時計店

會員募集

●本會は小學卒業後高等女學校に入學し難き女子達に講義録に由り女子必須の諸學科を自修せしむ●本會は伏見若宮妃殿下を總裁に戴き鍋島侯爵夫人會長として十三年來女學普及に努む●會則希望者はハガキ又は電話にて請求あれ

東京麹町區下二番町三十七番地
大日本女學會
電話番町一參三〇

消化新藥

胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉歸を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の内、澱粉不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す

醫學博士　井上善次郎

高峰博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有することは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種患者に毎に之れが服用を勸告する者なり

醫學博士　栗本東明

夏物續々着

歐米各國御婦人用品卒先輸入
貴婦人用洋傘各種
絹製夏肩掛各種
最新流行御婦人帽子
其他夏季用御婦人
高等装身具多數

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與
三枝小賣店
話新橋三九二七番

此の二人は誰でしようか

其名を當て丶御覧なさい
クラブ洗粉を最も愛用せらる丶婦人ですが

入浴せらる丶御婦人にして未だ舶來石鹸に優るクラブ洗粉を使はれぬ方があるでしようか

素顔の美を現はし給ふ東京市中の御婦人方は今や擧てクラブ洗粉を愛用せられつ丶あり

市中の各化粧品店及び小間物店を始め有名なる

三越呉服店は

信用あるクラブ洗粉を販賣せり

東京勸業博覽會

高等御婦人用小間物各種

美術貴金屬袋物商

東京日本橋區人形町通り

澤田治助

長電話浪花二五六九番

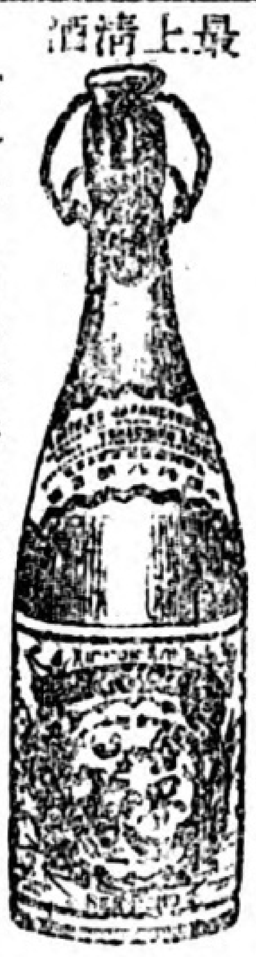
第二號館彫工會内出品



西洋酒鑵結食料品

清酒壜詰 世界長 御進物用 美麗箱入

最上清酒



世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり

壜詰 一升入 四合入 貳合入 一合入の四種

東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）

發賣元 高橋商店 電話浪花一五六一番

東京勸業博覽會第二號館酒類ノ部ニ出品



大俵炭

大德用

山出シノ儘叺入堅炭、土釜、切炭、壹俵ハ拾貫目内外入

目方ウリ

市内ハ無賃配達

戸塚商店

（電話本局三二〇八）

神田三崎川岸



醸造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 信略號（キハク）叉（ハク）

最上醤油

キハク印

於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印

醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーかそのあぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四



製造大販賣 卸小賣

夜具蚊帳ざぶとん

品質保險 ●正札引なし ●縱覽御隨意

諸官省御用

東京神田區表神保町 矢田商店 電話本局長二〇一八

市内無賃配達

博覽會賣店 矢田出張店 不忍池畔雪見橋近傍

商標御注意

市内無賃配達

大好評

ケーバー香水

賣捌所は到所和洋小間物唐物商藥化粧品店にあり

小瓶 貳拾五錢

大瓶 壹圓

直輸入元 日本橋區橋町二丁目 竹間商店



第五博覽會 三等賞受領

鑄鋼製其湯沸改良

桶類風呂各種出來有

御製改良風呂釜各

大小品各有

園商家御依頼御入用節

郵税實費御送可申上候

製造發賣元 東京日本橋區通油町十九（電話浪花一四六番） 銅器物問屋 南部鐵瓶販賣 石川商店

代理店 京都柳馬場 春井喜助

白ゆり白粉は東京市内に賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる

白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ最優等無毒の逸品なり

東京本所 井手製



登録商標 N.R.CO

ゴム裏雪踏

發賣元 東京市神田區上白壁町九番地（電話本局貳千五百五十參番） 今井商店

●販賣所は全國到る所の有名なる履物店にあり（近頃粗悪なる類似品あり商標に御注意あらんことを乞ふ）



夏物新荷到着

一婦人用洋傘、一レイス肩掛、一ハンカチーフ

一ブロッチ、一手袋、靴下、一束髮用クシ

一造化、リボン數百種、一飾附婦人帽子並子供帽子各種

一ヲペラバック、一其他季節品一切取揃申置候

◎東京勸業博覽會一號館内出品店ニハ

一（ダイヤモンド入三枚クシ）。（本鼈甲ノ櫛）

一花籠 一洋傘

一ハンカチーフ 一ヲペラバック

一其他各種

一市内御注文の節は店員參上可仕候

一地方御注文の節は代金引替小包郵便にて御送附可申候

一御便利の爲め御進物用切手調進可仕候

東京市京橋區南金六町 關口洋品店 電話新橋二九〇二番




Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四回新學期開始

# 女學講義録

會員大募集 博覽會開會中入會金全免

●本會は下田棚橋津田諸女史の贊助に成り講師は皆斯道專門の大家也●會費最も低廉都會一ケ月の遊學費にて全期を了はるを得

●中央新聞曰く講述何れも平易にして親切なれば初學の女子の講習には最も可なり。●報知新聞曰く天下講義録多しと雖も實益と趣味と併せ有すると斯くの如きは稀れ也●都新聞曰く講義平明にして用意親切なり

父母の膝下に在て高等女學校全科を僅に二ヶ年で修了する事が出來ます講義は文部省令に據れるは勿論更に家庭の實用に適する科目を加へ丁寧懇切に講述します

●規則書申込次第直に進呈すべし●

大日本女學會　東京神田南甲賀町十番地



見よ日本婦人の最新化粧法

# 化粧かゞみ

四月十日發行　婦人世界臨時增刊　定價十五錢　郵稅壹錢五厘

全篇村井弦齋氏の綿密なる立案と嚴正なる校訂に成る

和洋新式の化粧法を見よ

▲化粧は如何にすべきか(顏色眼元口元鼻を美くする法皆說明)……
▲髮は如何に手入すべきか(最新の洗ひ方結び方癖直し方等)……
▲手足は如何に美くすべきか(白くやさしく美しくする法)……
▲齒は如何に美しくすべきか(齒の手入により容貌を美にする法)……
▲化粧品は如何に選ぶべきか(白粉、香水、石鹸化粧水の選擇及鑑別法)……
▲佛國婦人の化粧法(世界中最も巧妙なる化粧法)……
▲米國式化粧法(最も新なる美觀術と最も進歩せる美顏法)……
▲獨逸式の化粧法(血色を美にす)……
▲日本婦人の化粧法(日本人に似合ふ美貌法一切)……
▲英國式化粧法(淸淡な……)
▲名流婦人の化粧實驗談最も有益……

其他化粧品使用上の注意、化粧品案内等最も親切に紹介

發兌元　東京京橋區南紺屋町二十二番地　實業之日本社　(電話新橋八百七十四番)



大好評

# 婦人世界

◎婦人は如何にして擧動を美しくすべきか(村井弦齋)◎娘を嫁にやりし實驗……

四月一日發行……第二卷第四號 ◎一冊拾五錢郵稅壹錢五厘……◎六冊郵稅共七十五錢……◎十二冊同壹圓拾錢郵稅共九……



實業之日本社發行　新年幼年雜誌

四月十日發行

# 家庭教育 繪ばなし

◎三歳以上幼男幼女に見せる目的にて玩具と教育とを兼ねた有益な雜誌です
◎全部悉く彩色幼年者の智情意を平均に發育さす樣巧妙に工夫してあります
◎櫻あり博覽會もあり懸賞もはめ繪探り及ホンチあり眞に幼稚園
◎少年にても太層面白い雜誌です

一 子を愛せらるゝ親兄姉諸君子供が如何に喜ぶか試して御覽

第壹卷第四號　一冊六錢 郵稅五厘　半年郵稅共卅八錢　一年七拾貳錢

是迄尙友館で發行してゐたもの

實業之日本社　(郵便振替貯金口座六參貳番)　賣捌 全國各地書店



東京勸業博覽會會場第參號館內半襟部に貳陳列呉服部に貳陳列織物部に壹陳列第壹號館化粧品部まげ形美人寫眞洗粉出品

春本季節草花模様

# 半ゑり帶揚類

○本春季用レースショール○長襦袢○同袖○羽織肩裏地○片側帶○廣帶地○ネクタイ○裾模様け出し○美人ひも帶止め○前かけ○紋り兵見帶○伊達卷○下じめ○懐中帛紗

賣店は　池の端雪見橋最寄　ゑり治
支店は　神田表神保町壹　電話本局九五二　ゑり治
本店は　新橋竹川町十二　電話新二〇二七　ゑり治
出張店　新橋際博館內階下　ゑり治



商品案內表無代送呈

商品概要　金銀時計類及附屬品。眼鏡類　寶石入指環。金銀互茶器類。洋食器。七寶花瓶　貴金屬美術裝飾品　各種

東京銀座通尾張町　大勝堂　電話新橋二二六四番



傳染病研究所長醫學博士北里柴三郎閲
傳染病研究所部長醫學士柴山五郎作著

# 社會教育 肺結核

洋裝總クロス紙數二百八十頁ポケット入美本　正價金六十五錢　郵稅金六錢

肺病は身體と身代とを喰ひ潰すと云ふ程に唱へらるゝもので而かも非常に多くの人を侵す所の恐るべき病氣である、併し醫學の進歩は之を豫防し又治療するの途を明かにして居る、本書は即ち肺病の本體を明にして以て如何にせば之を豫防し之を治療せしむべきかを叮寧に懇切に說き示したものである、故に肺病の豫防に戒意せらるゝ者及既に肺病に罹れる人は本書を熟讀さるゝことを切望するのである。

○最近肺結核療法　北里博士閲 柴山學士著　價八十錢 郵稅六錢
○通俗肺結核豫防及び療法　竹中醫學士著　價六十錢 郵稅六錢
○最近學說衛生講話材料　價五十錢 郵稅四錢
○按摩鍼灸學　高等盲啞學校 奥村三策　一圓五十錢 郵稅十錢

發行所　東京神田區鍛冶町 振替貯金四七七二　誠之堂書店　大阪東區南本町四　積善社　其他各地有名書店



專賣特許

# 乙女くけ臺

◎各女學校裁縫教授先生方より充分なる御試驗を受け女子裁縫實用器具として何れも非常なる御賞賛を蒙りたり

定價　特製 七拾五錢　竹印 卅五錢　松印 四十五錢　梅印 廿八錢

◎普通小包料 貳個迄金八錢 郵稅代用壹割增

製造發賣元　堀口商店　東京神田鍛冶町十一



四月一日より

第十三回新柄陳列會
寄せ切れ見切り反物大賣出し
懸賞裾模様圖案展覽

營業科目
新柄呉服太物類　歐米流行洋服類　鞄及旅行用具類
舶來小間物化粧品類　帽子洋傘履物類　室內裝飾品類

食堂及び寫眞場の設けも有之候

# 三越呉服店

日本ばし駿河町

東京市麴町區錢瓶町（常磐橋内）
日本興業銀行
電話本局 三、三〇〇番 四一一番 三七一番 （特）一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日步 八厘
當座預金 同日步 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四〇一二 浪花四五一一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日步 八厘
別口當座 同日步 壹錢
全國送金無手数料
其他銀行一般の業務は便宜取扱可申候

スコット乳菓
咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ着大ハ効驗アり早ノ試賜ヘ
説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳菓部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

天下一品
最上醤油
釀造元 千葉縣野田町
茂木佐平治
賣捌所は各地とも有名なる酒醤油店に有之候

袴乃親玉
卸部 東京日本橋區長谷川町 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
小賣部 本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ
共進會銀牌受領
香油パール
愛スベキ品四季ニ適シ毛髪ヒゲヲ保護養生ス
香氣ヲ有スル並果有數ノ逸品ナリ
日本發賣元東京平尾賛平商店

御半ゑり處
[illegible]
京橋銀座一丁目 [illegible]村屋
東京勸業博覽會第二號館出品
尚不忍池畔雪見橋際賣店新設

調劑ハ正確迅速にして藥品の純良なるは當局の特色なり

醫家處方調劑
東京淺草橋際茅町四ツ角
尾澤良藏藥局
藥局主任 藥劑師 船橋安吾郎
電話下谷千六百〇二番

眼科専門
（診察）午前七時ヨリ十二時 午後三時ヨリ五時迄
神田區連雀町十八番地（郵便局前）
ドクトルメヂチーネ 宇良田唯子
▲毎月第一日は診料藥價共無料

小兒科診察
特ニ 乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病
診察時間（午前九時ヨリ十二時）
獨逸新式種痘日曜午前
拙者儀久シク獨逸大學ニ於テ斯學ヲ專攻シ歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトルメヂチーネ 長井岩雄
日本橋區數寄屋町一、（電本百八十）

内科小兒科 特に呼吸器病
麴町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀨元九郎
電話番町八二二番

院長 醫學博士 榊順次郎 毎日午前診察
副院長 醫學士 久保徳太郎 毎日夕刻診察
婦人科産科榊病院
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

婦人病専門
院長 櫻井克己
櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮樓前 電話新橋三三二四

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトルメヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院
神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）

内科一般
午前宅診 午後往診
板垣亨
東京神田區美土代町三丁目十七番地
電話本局貳千九百七十番

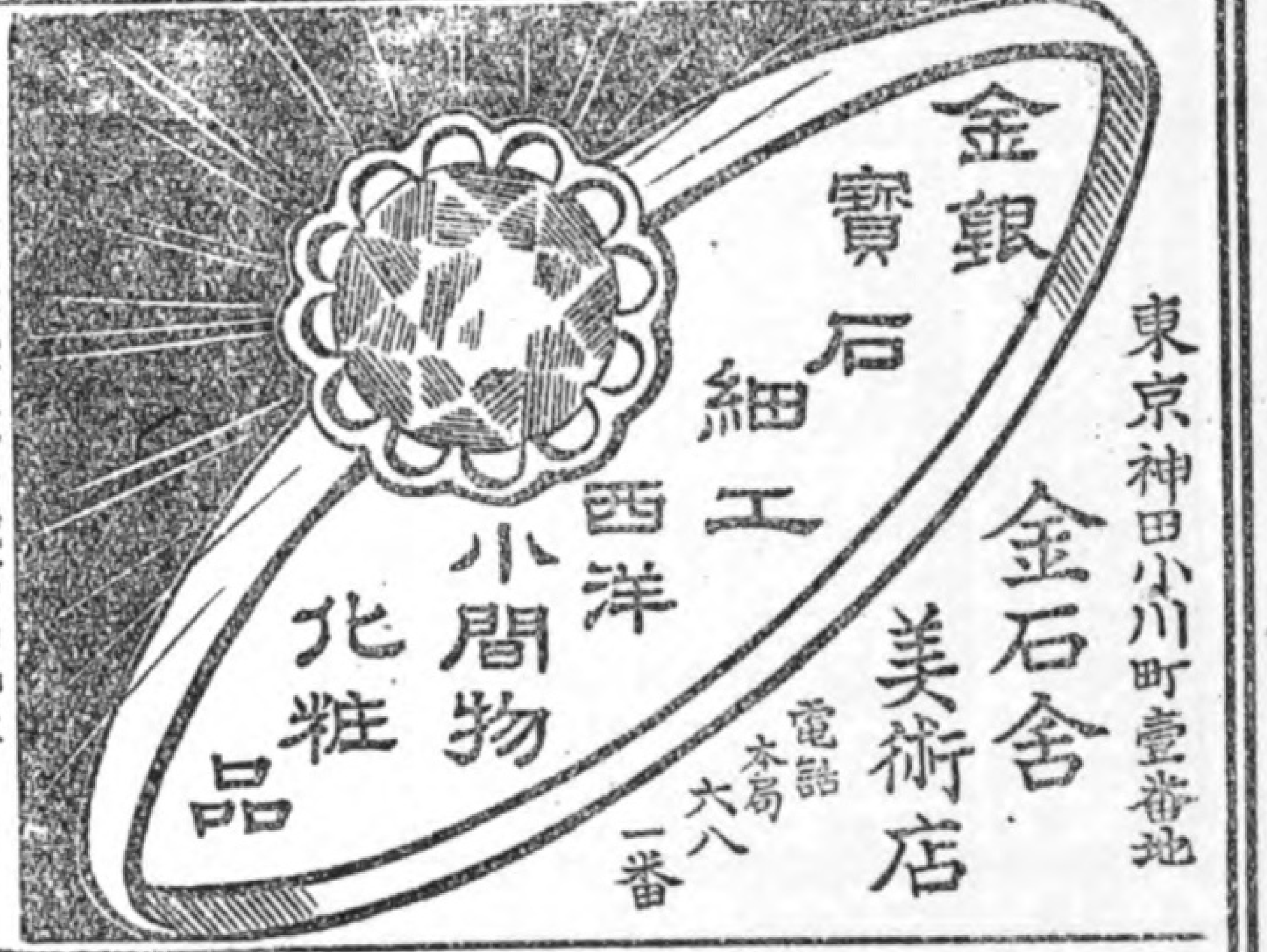
産科婦人科 楠田病院
日本橋區濱町三丁目七番地



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京勸業博覽會第一號館出品及不忍池畔辨天際賣店

胃病良藥 太田胃散




愛國婦人記者 手島益雄著

# 農村の幸福法

全一册

鮮巧美麗ナル繪畫數葉挿入
定價金三拾錢
郵税金四錢

昔は商賣往來と女大學さへあれば家も村も圓く治まつたのである併し進歩した現代は斯んな陳套なものでは身どころか自分の身の始末さへ出來ぬ本書は著者が多年講究したる家庭問題を基礎として町村の産業を發達せしむべく編むだもので結婚から始めて敎育は云はずもあれお寺を活かして使ふ方法辻角力芝居に至つて娯樂を受くる方法を敎へ其他臺所の事火の用心の事等有ゆる町村の幸福を呼號したもので町村長も警察官も神主も僧侶も醫師も親も息子も嫁も娘も老人も子供も世の中が厭になつて死にたい者も孕むで苦むで居る者も職業なく家なく困つて居る者も是非一讀すべきの價値がある讀めば必ず幸福を得られる町村の寶典也

發行所 東京市本郷區駒込東片町百十一番地(振替貯金三三四〇) 新公論社

取次所 東京麹町區麹町愛國婦人會内(電話番町五一〇二) 愛國婦人發行所

"赤門白粉"

赤門おしろいは
博士方々謂ゆる赤門派の研究に依て出來たる最新最良無鉛無害の白粉なり
色艶とのりよきとは赤門白粉の特色なり

東京馬喰町
花王石鹼本舖
長瀨富郎
電話浪花三番

東京女子高等師範學校 教授 東基吉先生編

最新版

# 教育童話 子供の樂園

東先生は曩に「母のみやげ」と謂ふお伽噺を編述して大に江湖の歡迎を受けたが今其の續篇とも謂ふべき西洋及日米の有名なる教育お伽噺を蒐集して此書が生れました題目は下の如し何卒御愛讀あらん事を乞ふ。

雪姫―白鳥の雛子―親子鼠―三匹の熊―ダイヤモンドの蛙―新浦島―七ツ星―四ツの願ひ―石屋の抱造―鷲の鳥の念佛―小指の小富―伊弉物語―一寸小僧―尾なし鼠―鬼退治―小牛の犬兒―生命の水―金の手斧―蛙と指環―朝顏の種子―三尾の金魚(イソツプの話)―鼠と蛙と鳶―鳥と狐―蟻と鳩―狐と雞―友達と態―人と馬―狐と獅子―金の卵―犬と兎―鳥と獸と蝙蝠

和裝全一册
定價金六十錢
郵税金八錢

東京神田表神保町 同文館

各女學校 御用

附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衞
電話(長)浪花一六四三番
振替貯金口座四九七番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

牛乳ノ主成分ニテ製セル

# 乳白化粧水 レート

在來化粧水ハ單ニ皮膚ヲ滑カニスルモノアレドモ未ダ常養ヲ與ヘ且ツ美艶純白ニスルモノナシ獨リ乳白化粧水レートハミルクノ有効分ノミヲ精製シ濃厚ナル香氣ヲモ加ヘ少量ニテ効多ク皮膚ノ細胞作用ヲ活潑ニスルヲ以テ自然純白ノ艶ニシ天然ノ光澤ト色彩トヲ與フ

定價 大瓶金五拾錢 小瓶金三拾錢

東京 大阪 平尾贊平發賣

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達 玉寶堂
電話下谷(特九六五番)(一一二四番)


愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 蔭凰舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

明治四十年四月廿日發行(毎月五日二十日二回)(定價金三錢一ヶ月六錢 郵税不要廣告料一行金六拾錢)發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京牛込區市谷加賀町 秀英舍工場

# 愛國婦人會記事

## 會告

來る五月十九日(日曜日)午後二時より青山練兵場內に於て本會第六回總會相開候間御出席相成度候也

愛國婦人會

愛國婦人會會員御中

注意

一、當日は會員章佩用の事
二、各支部よりの案內狀持參の事
三、小兒同伴は堅く謝絕の事
四、參列者は雨天の時設備狹隘につき雨覆持參の事

## 愛國婦人會(第六回)總會

愛國婦人會第六回總會は來る五月十九日青山練兵場に於て開催することに決定せり、其事務章程は左の如し

一、總會本部

本部は左の職員を以て組織す

會長、理事、評議員、東京支部幹事若干名、顧問、會計監督、事務長、事務員

會長則ち本部長は總會當日全體の統一に任じ全般の指揮命令をなす

本部には庶務會計の二課を置き本部職員の旨を受け事務を整理せしむ

庶務課は文書の往復、來會者の接待來會者中招待狀を遺失し入場不明なるもの、審查、其他臨時發生する全般に涉る業務を擔任す

會計課は金錢の出納、會場の設備、贈品授與茶菓宴席の設備其他經理に關する全般の業務を擔任す

二、會場整理掛業務概ね左の如し

(1)式場の裝飾休憩所の設備(2)式場に於ける諸合圖式場の整頓(3)來會者混雜の豫防(4)軍樂隊の指揮

三、來會者接待係の業務概ね左の如し

來會者入場劵の調查入場者の指導、招待狀遺失等に依り入場不明者を審查掛に廻送其他接待に關し發生する臨時の業務

四、茶菓宴席係の業務概ね左の如し

湯吞所の設備、茶菓の饗應、宴席周旋其供給順序の整備

五、贈品授與係の業務概ね左の如し

贈品は會計課より物品配與表と共に受領し無遺漏之を來會者に分配贈呈するものとす

六、審查係の業務概ね左の如し

來會者中招待狀若くは案內狀を遺失し或は會員證を落失に依り證據なきも其入場し得べき資格の有無を判斷し適良の處理をなす來會者中諸種の質問を乞ふ者に對しては鄭重に指導し適良に處理す

◉評議員會日取　四月分評議員會日取は左の如し

四月廿四日(第四水曜日)午後二時

◉總裁殿下支部御臺臨　兵庫岡山愛知各支部總會開催に付ては總裁殿下は左の御日取を以て御臺臨の事に御治定ありたり

| 月日 | 御發 | | 御着 | |
|---|---|---|---|---|
| 四月廿三日 | 新橋 | 午前八時 | 大阪 | 午後八時四十六分 |
| 仝　日 | 大阪御泊 | | | |
| 仝　廿四日 | 大阪 | 午後一時五十二分 | 神戸 | 午後二時五十五分 |
| 仝　廿四日 | 兵庫支部總會御臺臨 | | | |
| 仝　廿五日 | 神戸 | 午前九時十分 | 岡山 | 午後二時〇三分 |
| 仝　廿六日 | 岡山支部總會御臺臨 | | | |
| 四月廿七日 | 岡山 | 午前九時四十五分 | 神戸 | 午後三時二十五分 |
| 仝　日 | 神戸 | 午後三時四十五分 | 大阪 | 午後四時四十六分 |
| 仝　日 | 大阪御泊 | | | |
| 仝　廿八日 | 大阪 | 午前八時五十三分 | 名古屋 | 午後一時十分 |
| 仝　廿九日 | 愛知支部總會御臺臨 | | | |
| 仝　三十日 | 名古屋 | 午後一時二十三分 | 新橋 | 午後九時四十分 |

◉山形及神奈川支部御臺臨　神奈川支部は五月十二日山形支部は二十八日總會に付き總裁殿下は何れも御臺臨あらせらるゝ事に御治定ありたり

◉會長の支部出張　兵庫岡山京都愛知の各支部に於て總會を執行するに付き岩倉會長は總裁殿下に御隨行して兵庫岡山愛知の各支部へ出張され尚京都支部の總會へは單獨臨場せらるゝ都合にて評議員有島幸子氏も殿下に御隨行して出張する都合なり

◉一條理事歸朝　本會理事公爵夫人一條悅子氏は兼て佛國巴里に滯在中の處本月十七日午後五時無事歸京されたるにつき新橋驛に近衞理事鍋島理事九條監事板垣評議員等數十人出迎はれたり

◉各支部顧問招待會　本會支部顧問たる各府縣知事は公用を以て上京中を好期とし去る十八日偕行社に於て招待會を開きたるが總裁殿下御臺臨の上左の御諭旨を賜はりたり

本會事業に關しては年來諸氏の盡力と援助とに賴り擴張の效觀るべきものあるは智惠子の尤も欣喜する所なり然れとも救護の實をして遺憾なからしめんことを期せんとせは素より容易の業にあらず幸ひ諸氏の出京に際し一堂に相見るの機を得聊か諸氏の勤勞を慰すると共に將來尚一層盡瘁の勞を執られんことを望む

原內務大臣は各顧問を代表して左の如く奉答せり

本日は各地方長官のお招きを忝うし特に優渥なる御諭旨を賜はり感激の至りに堪へず御諭旨に依り今後一層斯會の爲めに盡力致す事を誓ひ謹んで奉答す

◉各支部主事打合會　支部の主事並に事務員にして出京中の人々を本部樓上に招ぎ打合會を開きたるが其會議の議題は日露戰役に關し行賞の件紀念賞牌の件各支部總會に關する件等にて互に協議を爲し終つて折詰辨當を饗し散會したり

◉遺族接待　五月二日より五日まで四日間靖國神社臨時大祭中軍人の遺族接待方につき其後確定せし事項左の如し

(一)茶菓接待席設置　例年の如く牛ケ淵公園內に天幕を張り會長を始め理事及評議員東京支部幹事方出張接待に從事する事

(二)神杯付與の手傳を爲す事　神殿に於て祭典委員を補助して神杯及茶菓子袋寄贈に從事する事

(三)餘興　軍樂隊を招き接待所に於て音樂を奏する事

(四)紀念品贈與　總裁殿下御染筆になる詠歌の軸物一個宛を贈與する都合なり

◉菓子包裝事業　靖國神社祭典の際遺族に贈與すべき御菓子は一應神前に供したる上之を袋に配分する事業にして昨年の例により委員よりの依賴ありたるを以て去る十六日午前九時より事業を始め午後四時に終り一萬五千袋の包裝を終へたり

當日は岩倉會長始め近衞理事板垣評議員本支部の職員七十二人出張せられ最も目ざましく働かれたり

◉本部遊說員消息　富樫まさ子氏は香川支部の遊說を本月十二日終り夫れより二十一日まで大阪支部の遊說を爲し終つて富山支部に出張する都合なり又野中やち子氏は去る十四日出發約四週間の豫定を以て山形支部に出張せり

◉金山相談役　韓國委員本部相談役金山尚志氏(統監府書記官)は本會の爲め大に盡力され居たりしが去一日逝去せられたり依て本會長より鄭重なる弔詞を贈られたり

◉故東亞主筆玉井喜作氏　獨逸にて發行する東亞なる雜誌を主宰し居りし玉井喜作氏は兼てより本會に同情を寄する事深く屢々海外より寄附金を醵集し本會に送付し來りし事ある特志家なるが氏の友人にして嚴谷季雄氏以下三十名の發企にて氏の遺兒教育資金を醵集に着手したり尚本會に於ても應分の資金を出す筈なり

### 愛國婦人會會員女子々比較表(明治四十年三月末日現在)

| 支部名 | 特別會員 | 通常會員 | 計 | 三十六年末女子人口 | 女子人口百人ニ付會員比例 | 贊助員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 石川 | 一、九九四 | 一九、四八八 | 二一、四八二 | 三八五、四七八 | 五、五八 | 六一 |
| 山口 | 八四三 | 二五、九五一 | 二六、七九四 | 五〇六、九二〇 | 五、二九 | 八 |
| 山形 | 九一〇 | 一八、一九九 | 一九、一〇九 | 四三九、六一八 | 四、三五 | 四八 |
| 愛知 | 一、三七七 | 三一、七一三 | 三三、〇九〇 | 八六八、五三八 | 三、八一 | 五 |
| 岡山 | 一、〇三八 | 二〇、〇二五 | 二一、〇六三 | 五七七、二七二 | 三、六五 | 八 |
| 福岡 | 二、六一〇 | 二五、五一八 | 二八、一二八 | 七七二、七四三 | 三、六四 | 九 |
| 北海道及函館 | 三、二一五 | 一四、九九九 | 一八、二一四 | 五〇七、六三八 | 三、五九 | 五八 |
| 富山 | 八九五 | 一一、九八一 | 一二、八七六 | 三八四、九八二 | 三、三四 | ｜ |
| 熊本 | 二、八四一 | 一七、三五七 | 二〇、一九八 | 六一〇、四一一 | 三、三一 | 一二 |
| 愛媛 | 五〇九 | 一五、九九九 | 一六、五〇八 | 五一一、三九六 | 三、二三 | 三九 |
| 秋田 | 八三九 | 一一、九一六 | 一二、七五五 | 四〇三、九四六 | 三、一六 | ｜ |
| 兵庫 | 二、〇七五 | 二六、一九〇 | 二八、二六五 | 八九三、七三四 | 三、一六 | 一五 |
| 京都 | 二、二〇四 | 一四、〇五二 | 一六、二五六 | 五二一、三九五 | 三、一二 | 一九 |
| 香川 | 八二〇 | 九、六二九 | 一〇、四四九 | 三四七、八九〇 | 三、〇〇 | ｜ |
| 島根 | 三三九 | 一〇、四六四 | 一〇、八〇三 | 三六二、六三五 | 二、九八 | ｜ |
| 群馬 | 一、五〇六 | 一二、〇一〇 | 一三、五一六 | 四五四、一七一 | 二、九八 | 二二三 |
| 長崎 | 三、二五八 | 一〇、二六六 | 一三、五二四 | 四八九、三五〇 | 二、七六 | 一 |
| 佐賀 | 八八六 | 七、九八一 | 八、八六七 | 三二七、六七八 | 二、七一 | 二 |
| 青森 | 一、一三七 | 七、五二九 | 八、六六六 | 三二二、二一一 | 二、六九 | 七 |
| 宮崎 | 二七七 | 六、二九四 | 六、五七一 | 二四七、二五二 | 二、六六 | 一八 |
| 宮城 | 一、四四六 | 一〇、一六〇 | 一一、六〇六 | 四四五、〇四七 | 二、六一 | 七〇七 |
| 大分 | 八四八 | 一〇、三一八 | 一一、一六六 | 四三〇、〇二五 | 二、六〇 | 三 |
| 神奈川 | 一、五〇四 | 一〇、五一九 | 一二、〇二三 | 四九九、六二三 | 二、四一 | 一 |
| 福井 | 八一三 | 六、八二一 | 七、六三四 | 三二〇、一五四 | 二、三八 | 一 |
| 奈良 | 二八九 | 六、一七一 | 六、四六〇 | 二七八、一九一 | 二、三二 | ｜ |
| 三重 | 四〇〇 | 一一、六一九 | 一二、〇一九 | 五二二、〇四三 | 二、三〇 | 四 |
| 岩手 | 六七六 | 七、二七三 | 七、九四九 | 三六九、二七八 | 二、一五 | 一 |
| 大阪 | 七五一 | 八、七九四 | 九、五四五 | 四五〇、一二六 | 二、一二 | 六 |
| 高知 | 二五六 | 六、四三四 | 六、六九〇 | 三一八、二四五 | 二、一〇 | ｜ |
| 栃木 | 三五二 | 六、九三四 | 七、二八六 | 三五二、六〇八 | 二、〇七 | 五 |
| 德島 | 三、一二六 | 一三、六〇八 | 一六、七三四 | 八六三、四〇五 | 一、九四 | ｜ |
| 福島 | 一、二二二 | 一〇、〇〇二 | 一一、二二四 | 五八二、一五六 | 一、九三 | 一 |
| 滋賀 | 四八七 | 六、三一〇 | 六、七九七 | 三六四、六八八 | 一、八六 | ｜ |
| 東京 | 七、七四七 | 一三、四五一 | 二一、一九八 | 一、一五七、五一四 | 一、八三 | 四一 |
| 靜岡 | 六五五 | 一〇、九八九 | 一一、六四四 | 六〇四、八四八 | 一、八二 | 九 |
| 千葉 | 九九八 | 一〇、一八七 | 一一、一八五 | 六五六、七八二 | 一、七〇 | 二七 |
| 山梨 | 四〇二 | 四、〇〇九 | 四、四一一 | 二七二、一四八 | 一、六二 | ｜ |
| 廣島 | 一、四二四 | 一〇、三七六 | 一一、八〇〇 | 七四六、六五五 | 一、五八 | 一 |
| 茨城 | 五四二 | 八、〇八二 | 八、六二四 | 六〇〇、四一三 | 一、四四 | 一 |
| 鹿兒島 | 一、〇八六 | 五、八五九 | 六、九四五 | 五九四、九八五 | 一、一七 | 八 |
| 埼玉 | 三五二 | 六、八六九 | 七、二二一 | 六二七、五五六 | 一、一五 | 二七 |
| 岐阜 | 一、九九七 | 一三、六四八 | 一五、六四五 | 一、四〇二、七七一 | 一、一二 | 一八 |
| 臺灣 | 七八一 | 四、五四四 | 五、三二五 | 五〇二、六五八 | 一、〇六 | 一 |
| 和歌山 | 九五八 | 八、五五四 | 九、五一二 | 八九九、〇二一 | 一、〇六 | 五 |
| 新潟 | 二八八 | 三、四〇一 | 三、六八九 | 三五〇、〇六九 | 一、〇五 | 一 |
| 鳥取 | 一六六 | 一、九二四 | 二、〇九〇 | 二一七、五四一 | 〇、九六 | 四 |
| 長野 | 五五二 | 四、六四八 | 五、二〇〇 | 六七四、五一五 | 〇、七七 | 一 |
| 沖繩 | 三一六 | 一、三三五 | 一、六五一 | 二三九、二二七 | 〇、六九 | ｜ |
| 海外 | 七三九 | 二、一二七 | 二、八六六 | ｜ | ｜ | 二、七一三 |
| 計 | 六〇、七四六 | 五四二、五二七 | 六〇三、二七三 | 二五、三一三、〇四〇 | 二、三八 | 四、一一九 |

備考

支部ノ配列ハ會員比例數ノ最モ多キモノヨリ順次配列ス

北海道及函館ノ兩支部會員數ハ合算シテ揭載セリ而シテ函館支部會員數特別五百一人通常千六百六十九人ニシテ他ハ北海道支部會員數ナリ



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 社告

子爵小笠原長生立案　佐藤正校閲　愛國婦人會編纂

### 奥村五百子詳傳　全一册

一部金五拾錢　郵税四錢

本會の主唱者たる奥村五百子女史の傳記は明治昭代に於ける日本婦人の活動的歴史なると同時に一面は愛國婦人會發達の歴史なり今や本會之れが編輯の任に當り材料を精選し凡そ四百頁大の書册となし其間に寫眞版を挿み文章を平易にし且つ教育的に編纂し會員は素より汎く全國姉妹に頒たんとす此際會員は卒先して購讀方申込れたし

尚本書よりして得たる多少の利益は擧げて奥村氏の記念碑建設の費用に供したく故に可成多數に購入ありたし

發行並に賣捌所　愛國婦人發行所

## 各地支部活動狀況

◉北海道支部　同支部は來る八月開催の北海道畜産共進會と同時に支部總會を擧行する目的にて過般來之が豫算其他の調査に從事し居たるが今回結了を告げたるを以て來月五日の幹事例會に提出して協議に附する由尚ほ同日の例會には五月執行の招魂祭に對する軍人家族の待遇等に付き協議する筈なりと

◉東京支部　同支部小石川區幹事部に於ては去る六日正午より同區後樂園に於て會員の交誼を温むるため懇話會を開らきしに會するもの雨天なりしにも拘らず三百餘名あり須崎區長開催の辭を陳べ一同に茶菓を饗し園内名所を巡遊して半日の清興を盡したり尚ほ餘興には伯鶴の講談赤穗義士銘々傳並に海老一の太神樂等ありて頗る盛會を極めたり。

◉京都支部　同支部の催にかゝる第二回福引會は既報の如く去る六日七日の兩日間京都市岡崎町博覽會場内に於て擧行せり初日は生憎春雨降り出し來會者如何と思ふ程なりしが雨を冒して入場するもの多く七日は又非常の來會者ありし警察署より巡査の派遣を乞ひて取締る程の人出にて好結果を奏したり尚同支部總會は二十八日開く都合なるが特別會員には二十九日より三十日まで二日間大宮御所仙洞御所二條離宮の三ヶ所を拜觀差許さるゝと云ふ

◉兵庫支部　同支部にては來る二十四日午後一時より神戸市湊川神社に於いて第一回總會を開催すべく就いては同市に於ける全會員は來る十日迄に市役所及び姫路幹事部へ出席方通報すべく、各郡部に於ける會員は夫れ〳〵郡幹事部へ全日迄に出席方通報すべしとなり、因みに出席者に對しては汽車賃を割引さるゝ筈にて各自便宜に所屬幹事部より之が割引券を受取るべし、尚出席者は參會の節は會員章を佩用案内狀を持參すること、服裝は成るべく綿服の事、會場入口は正門及東西兩門三箇所何づれより入るも隨意の事、會場内に於て數種の餘興を觀覽に供す

又姫路幹事部にては四日午後一時より市役所樓上に於て幹事及び勸誘委員會を開會し來る廿四日神戸に開催の兵庫支部第一回總會に關する打合せを爲せり

◉新潟支部　同支部は北蒲原郡町村長會議に於て稻見郡長は婦人會員募集等に付き左の通り懇談したりと云ふ

一愛國婦人會員增募の件に關しては客秋御會合の砌り懇囑致置候次第も有之爾來御盡力の結果追々入會員も相增來り候得共未だ當時豫定三分の二に達せず甚だ遺憾に堪へず候然るに本會の事業は獨り廢兵及び戰病死者遺族の救護に止まらず進んで現役兵家族恤救の道を立つる等前途益々發展す可きに從て之に要する資金多きを加ふるは寧ろ當然の義と存候近く七月中新潟支部總會を長岡市に開催の豫定に候處其際は本郡の會員千七百名に達せしめ且つ總會費用金五百二十餘圓を配當せられたれば近時諸般の公務繁を加ふるの折には候得共諸君には別紙配當表の通り會員の增募及寄付金募集に付非常の御配慮を煩し以て積年の目的を達すべき程盡力あらんこと切に望む　(別表略)


## 愛國叢書出版廣告

### 主婦の職分　第壹編

(表裝は色刷にして美麗、印刷の鮮明なる、ふりつきたる假名のよき本なり)

目次大要

家庭革新の目的　子爵渡邊國武　女子と國家の關係　文學博士村上專精　主婦の資格　子爵松平正直　社會的禮儀　女子高等師範學校教授佐方鎭子　家庭の秩序　成女學校長嘉悅孝子　日本民族適合の家庭　三輪田眞佐子　家族制と別居制　海老名彈正　同居制と別居制　本多貞子　人生の至樂　文學博士前田慧雲　女子年中行事　東京美術學校長正木直彦　女子と美術心　伯爵松方正義　園藝趣味の養成　仁尾繁子　伯爵酒井忠興　家庭音樂　前東京音樂學校長大島義脩　用意　小浦義子　小事　下瀬勝千代　自他の樂　有島幸子　下女の使用　松崎悅子　儉約　江原素六　金錢の使い方　コーツ夫人　買物　下田歌子　家計費目の割合　呉文聰　家庭　子爵加納久宜　英國の家庭教育　法學博士添田壽一　米國婦人の經濟思想　小崎千代子　東西婦人の比較　英國と日本の家庭　園田孝吉　日米の家庭　安部磯雄　等其の重なるものにして實に主婦の室典として有益無比の書なり

▲實價金貳拾錢
▲製本出來期
▲發送は申込順に依りて製本出來當日より確く實行す

郵送料は當方に於て支辨の事

明治四十年四月二十日

東京市九段牛ヶ淵公園愛國婦人會内　愛國婦人發行所


◉長野支部　同支部埴科郡幹事部にては三月三十日午前十時松代町小學校内に開會出席會員四百餘名長野支部よりは評議員山口義子氏事務員寺澤いく子氏臨席あり式後引續て故奥村五百子刀自の追吊會を開き終て別室に於て午餐を喫し夫れより打揃ふて隣邸なる眞田伯爵家庭園を拜觀し此處にて紀念の撮影を爲し夫れより更に隣房なる眞田壽子氏自邸に到り豫て用意の餘興落語家加州の快活なる落語近藤澤兩氏の主宰なる能樂數番あり散會したるは午後四時を過ぎたりと又諏訪郡幹事部に於ては三月廿四日故奥村刀自の追悼會を開けり是の日天氣清朗殊に彼岸會日曜なるを以て老若男女四來雲集本會員の出席者のみにても無慮參百八十九名幹事の出席者三十七名來賓としては長野支部職員を初め所在地諸官衙署長各町村委員在鄕將校及び各軍人團長其他郡内特志者各宗共立諏訪福田會員等にして參會者には總て晝餐及び紅白の菓子愛國の文字を染出せるものを供せり法話演説は各宗の選出者のみにして從軍僧眞言宗特派員小林榮運氏の如き其一人なり法會を全く結了せしは午後四時當日參會せし各寺院僧侶には幹事部長より總裁妃殿下の御歌御染筆石版摺各壹帖づゝ贈與せり當日撮影せし寫眞帖は奥村氏の遺族並に本部へ贈呈せり

◉埼玉支部　同支部に於ては支部長大久保榮子氏を初め副長評議員等去る十一日澁谷なる廢兵院を慰問し院長の案内にて懇々慰問せられ入院者各自に對し埼玉縣下銘産の菓子繪はかき及職員の手製に係る寫眞挾等を贈與せられたり

◉青森支部　同支部に於ては先年來遺族廢兵慰問會を開き支部長又は幹事部長其他役員等も出席し同時に會員募集に努め來りしが來月八日より三戸郡に於て慰問會を開き引續き幹事部職員並會員と共に豫定の不足せる七百有餘名の會員募集に着手することに決し右慰問會には西澤支部長も出張せらるゝことゝなれり又支部職員中の發起に成れる慈善演藝會第一回準備委員會を去月二十日支部樓上に於て開き委員長副委員長を互選したるに委員長に石井たき子副委員長に森田たき子當選し乃ち石井幹事座長席に着き直に演藝の種類を議したるに職員の活人畫、音樂合奏、演劇、義太夫、講談、の類及活動寫眞、手踊り等の種類に決し演藝會の休憩時を利用して慈善賣店を開くことをも可決し次に會場は青森座と定め入場券は一等五十錢百枚二等三十錢千二百枚三等二十錢二千枚を印刷して職員會員有志者の手に依りて夫々配付することゝ決したり尚ほ全支部に於ては本會の方針に基き會旨普及の必要を認め來五月の東京に於ける總會までに豫定數一万人に達せしめんとするには到底今日の現狀にては覺束なきを以て是等協議の爲め首藤事務員は中郡へ平地事務員は南郡へ向つて夫々出張せり

◉宮城支部　同支部に於ては過日市内軍人家族並に廢兵の慰問を行ひ兼ねて生活狀態を實査したる處中には生計頗る困難なるものありしかば近日各慰問委員より調査報告を徴し協議の上同會定期救護に屬する丙丁種の内特に丁種に對し臨時救護を行ふ筈なり

◉廣島支部　同支部賀茂郡幹事部にては奥村五百子刀自の爲めに去る二月二十八日西條町教善寺に於て追弔法會を營みしが當日教善寺にては六金色の旗を建て愛國婦人會の記名ある提燈を吊し最と莊嚴に裝飾を施し賀茂郡幹事部長中尾菊子氏を初め郡長町村委員郡役所員愛國婦人會員等無慮百五十名參拜し參拜者一同に對して茶菓の饗應ありたり



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百廿六號

明治四十年四月廿日發行（每月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

理事　公爵夫人　一條悦子

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN